

166
617

都
北
榮
折



特29
534



大木正太郎

大木正太郎

大木正太郎



都の柴折

凡例

一 本書は愛顧華主の京都來遊の便益を計らんが爲めに、特に編纂せるものなれども、名勝舊跡の考証完備せず、其他の雜件今歳の舉行に面目を改めし者尠なからず、編輯上著者の意に満たさること頗多し、希くは之を恕せよ

一 遊覽の案内記に商業上の事を記すは俗を免れず、況や自家の醸造法等を掲ぐるに於てをや、然れども徒らに仙人を氣取るの要もあらんや、此冊子を一讀し玉へとはもとより著者の切望なり

(二九)

一自家の醸造法其記す處概畧に過ぎず、汎く了解し易きを
主とするはなり、其詳細の如きは他日の劉覽に供せん

明治廿八年春日

著者識

都々紫折

目錄

○來遊を促す

第一適任の案内者.....一丁

第二關西地方聯合の計畫.....六丁

○京都の名所古跡

第一地理概畧.....十一丁

第二市内中央の部.....十四丁

第三東北の部.....三十一丁

第四西北の部.....四十五丁

第五西南の部.....五十九丁

(一〇)

(二目)

第六東南甲部……………六十八丁

第七東南乙部……………七十八丁

○攝津灘

第一灘の景況……………八十五丁

第二灘酒釀造法概略……………八十九丁

諫鼓鳥印釀造法摘要……………同 丁

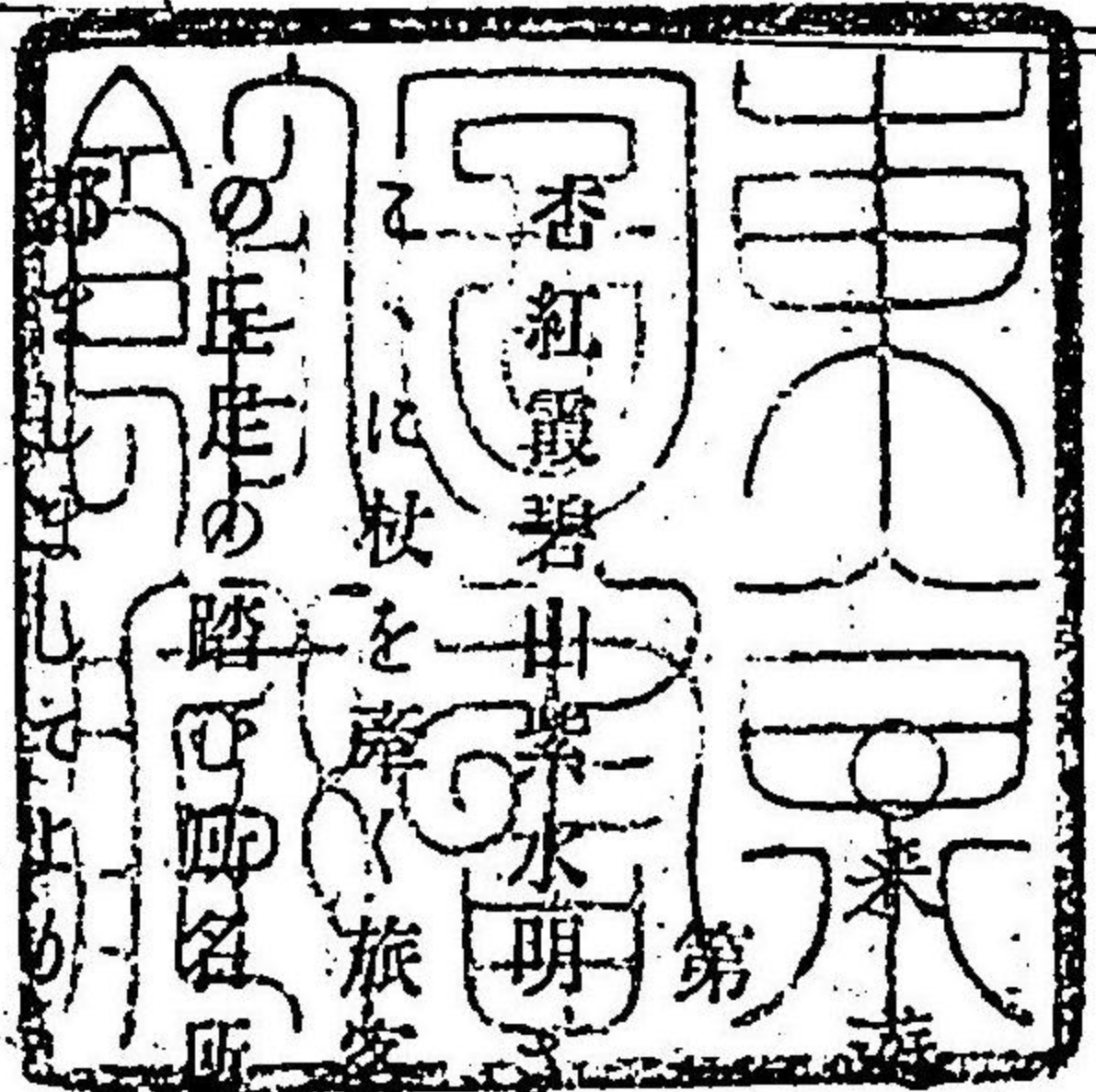
○雜 件……………九十九丁

○七條停車場人力車賃金表○馬車賃金表○鐵道及汽船會社割引○電機鐵道賃金表

○京都宿屋業組合理約摘要○勸業博覽會各府縣出張所○京都重要商工人名……………

都の柴折

諫鼓樓主人著



適任の案内者
を促す

すがに弄て難き舊都の風光古より京見物にとて
春夏秋冬かつて絶間なし古人曰く一畝の土一步
舊跡ならざるはなしと實に 桓武天皇こゝに遷
の方年を歴る事一千一百その間歴史上に技師上
に商業上に名高き名所薫しき古跡その數幾千なるを知らず社宇殿堂
山野に散在し花笑ひ鶯呼ぶの勝地擧げて乏しからずことに旅客の便

(一)

(二)

利とも謂ふへきは京都の名勝古跡山にある者川にある者里にある者野にあるものこれより彼を尋ぬる道敢て遠からず舟車を通せざる險阻なしこれ外ならず京都の地は山背の名にそむかず三面の山野皆相連らなりその間に散在せる名勝古跡割合に數の多ければなり特に東山名所の如きは陽春の日終日にして數十の名勝を尋ぬること敢て難しとせず目に見る小安樂世界とは誰か負はし、名を

雅俗を論せず京都に遊はん事を願はざるの人はなし特に今歲明治廿八年は四月より七月中第四回内國勸業博覽會をこの地に開設せらるゝ事になり此舉と共に遷都一千百年の紀念祭を施行すといへりされは此準備全く整頓し新らたに建築せられたる平安宮大極殿蒼龍樓白虎樓應天門の建物はさながら古代の盛朝の壯觀美しとも目新しとも申すへけん博覽會の建物には美術工藝農林水産教育鑛業器械の諸館

薈を連ね軒を並へ全國より力を込め腕をよりて製出したる各種の出品は人まち顔に陳列せられたりこれのみにも一度ひ來遊すへきの價値はあり況や名所古跡の慕はしき者あるに於てをやいさ來れいさ來れ

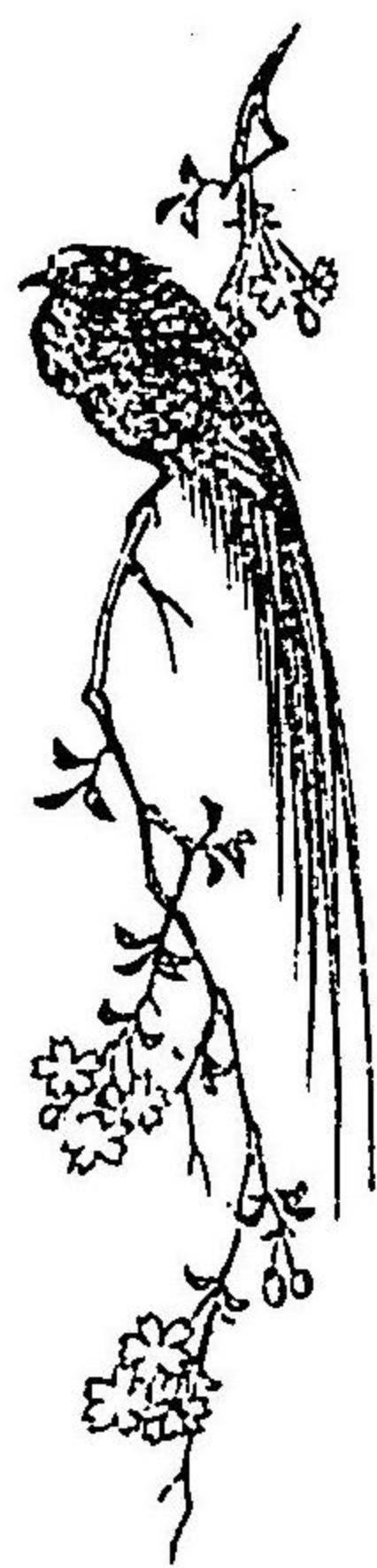
されば此機に乗して來遊すへき旅客老若男女を論せず其數幾千萬億そや思ひ廻はせは京都の山野も爲に膨張して破烈するに至らんか懐ひくゝに來る旅客の快樂今より書たてんもなかく筆紙に盡しかたしさはさりながら旅行漫遊は出途の前より總ての旅裝準備の外旅行の道しるべ遊ふへき土地の模様旅宿の適否など豫め心得かかされは折角の愉快も不愉快となること往々然らざるはなし何となれば不知案内の處へ出掛けるなれば何處より蒸船とか蒸車とかに乘し何處に下車する又何處より何處までは馬車とか人力車とか何處より何處ま

(三)

(四)

ての賃金は何程、旅宿は何れの邊、便利とかなどの心得、豫めなきに於ては、旅行の順序、錯亂し、或は道をとり違へ、馬車、人力車などに、不當の賃金を拂ひ、旅宿の不便、利不親切などを來し、不愉快の旅行をなさざるへからず、殊に京名所の如き、旅宿の家々には、これか案内者なきにあらざれども、これとて皆悉く親切極まる者のみなる事能はず、故に今半町ばかり行けば、最も由緒ある社寺へ詣ることを得るも、其儘よそに見過す等、歸國の土産語に赤面することなしとせず、これか乘には、案内記にしくものなし、この小案内記の著者は、京都の住人にして、世々日本酒醸造を業とし、この土地の事は、普通一般心得居れり、又た攝津灘にも醸造をなして、醸出する處の醇酒は、諫鼓鳥といふ銘を負はし、東京南新川酒問屋山田五郎助方にて専賣し、到る處好評を博し居れば、全國斯業の方々は、とりも直さず大華主なり、巳の商業を愛する者誰か、大華主に報せざるに

る。これ今歲京都に舉行ある、博覽會、紀念祭、京都見物等に、この大華主の來遊せらるゝこと、必ず多からんを豫想し、これか案内者たるもの、著者こそ適任の人物ならんと自ら是任し、拙き筆を採り次ぎ、に記し侍るに



(五)

(六)

第二關西地方聯合の計畫

本年京都に開設せらる博覽會、及桓武天皇遷都壹千百年紀念祭を舉行するに就ては、特に紀念祭協賛會なる者を、有志者相謀て設立し、又來遊旅客の愉快と便利を計り、關西の各地と聯合し、地方の名社古刹を巡拜し、寶物を觀覽せしめ、山海の絶景を尋ねしむるに、至便至利の法を謀れり、此聯合は關西各地の、速かに贊助する處となりて、鐵道瀛船等の賃金割引も、それ／＼承諾せられたれば、京都來遊のつひ手を以て、これ等の各地へ容易に出掛ぐることをも得る、誠に好機とはなれり

●先づ伊勢には本朝大廟と畏み奉る内宮、外宮、別宮、攝末社、朝熊山、金剛證寺、二見浦等、こゝに參拜するには、參宮鐵道の便利ありて、京都より一夜宿りにて充分なり、

●次に尾張名古屋の金城の如き、銅瓦金鉾地を抜くこと三百尺、建築

裝飾善美を盡したる、近世覇府の盛時を見るべき大建物あり、熱田神宮あり、神寶あり、商品美術品の展覽會も開設せらる、と聞く

●美濃の岐阜には、有名なる長良川の鵜飼あり、金華山あり、養老の瀑布あり、以上尾濃美濃の如きは、東海道鐵道の主驛にして、乗降の便利言ふ迄もなし

●安藝の廣島には、日本三景の嚴島神社あり、嚴島には、古書畫の有名な者、寶物等數多し、七浦七蛭子の島廻り、百八廻廊の總燈明、大經堂千餘名五重塔、廣島市の繁賈等あり、廣島へは神戸より山陽鐵道會社の線路接續せり

●讃岐琴平には、金刀比羅大權現あり、大坂川口港、及神戸港より瀛船にて到るべく、又鐵道にて備前岡山、若くは尾道へ出て、瀛船にて渡海するを得へし、多度津港よりは鐵道にて、琴平へ達すべく、又丸龜へ到ること

(七)

(八)

を得へし

●備前岡山には後樂園あり、吉備津神社、由加神社、神道黒住社等あり、其他山陽鐵道線路にして、須磨、明石、舞子等所謂播磨名勝の佳景あり

●大和奈良には、大坂湊町停車場大坂梅田停車場より凡貳十町余を隔つより、鐵道にて到るべく、又京都より伏見を経て、馬車にて到ることを得へし、奈良は本朝の最舊都にして、春日、淡山、石上、大和大神、龍田、廣瀨、橿原、吉野の各大社あり、東大寺、興福寺、長谷寺、法隆寺、壺阪寺、岡寺、橘寺、久米寺、達摩寺、法輪寺、正倉院等の名寺あり、若草山三笠山あり、帝國奈良博物館、吉野山等その他名所多し

●攝津界には大濱公園あり、葦海の見はらし頗る佳なり、濱寺、南宗寺、妙國寺あり、大社には住吉神社あり

●大阪は東京に次く大都なり、商業地なり、工業地なり、豊大岡の遺物な

る大阪城、櫻の宮、天滿天神社、高津神社、天王寺、清水等の社寺あり、帝國造幣局あり

●神戸港は日本の大港にして、外國との互市場なり、楠公湊川神社あり、布引の瀑布、生田の森、和田岬あり、和田岬には水族館を設けらる、その他神戸より以東、西の宮、今津まで、海岸數里の間を灘の側と唱へ、名酒を産するを以て名あり、他業者には見るべきもの無きも、酒造に關係あるものは、つひ手なから遊はさるへからず、否遊散の旅行とは謂へ、實業者たるもの、まげても遊覽せさるへからず、これ此小案内記に限り、特に灘の地理を記したる一項を、後に掲ぐる以所なり

(九)

●近江には琵琶湖あり、湖上有名の近江八景あり、竹生島あり、これらへは漁船會社ありて、大津より漁船にて巡覽することを得へし、又比叡山、延曆寺、長等山、三井寺、石山寺、日吉神社等あり

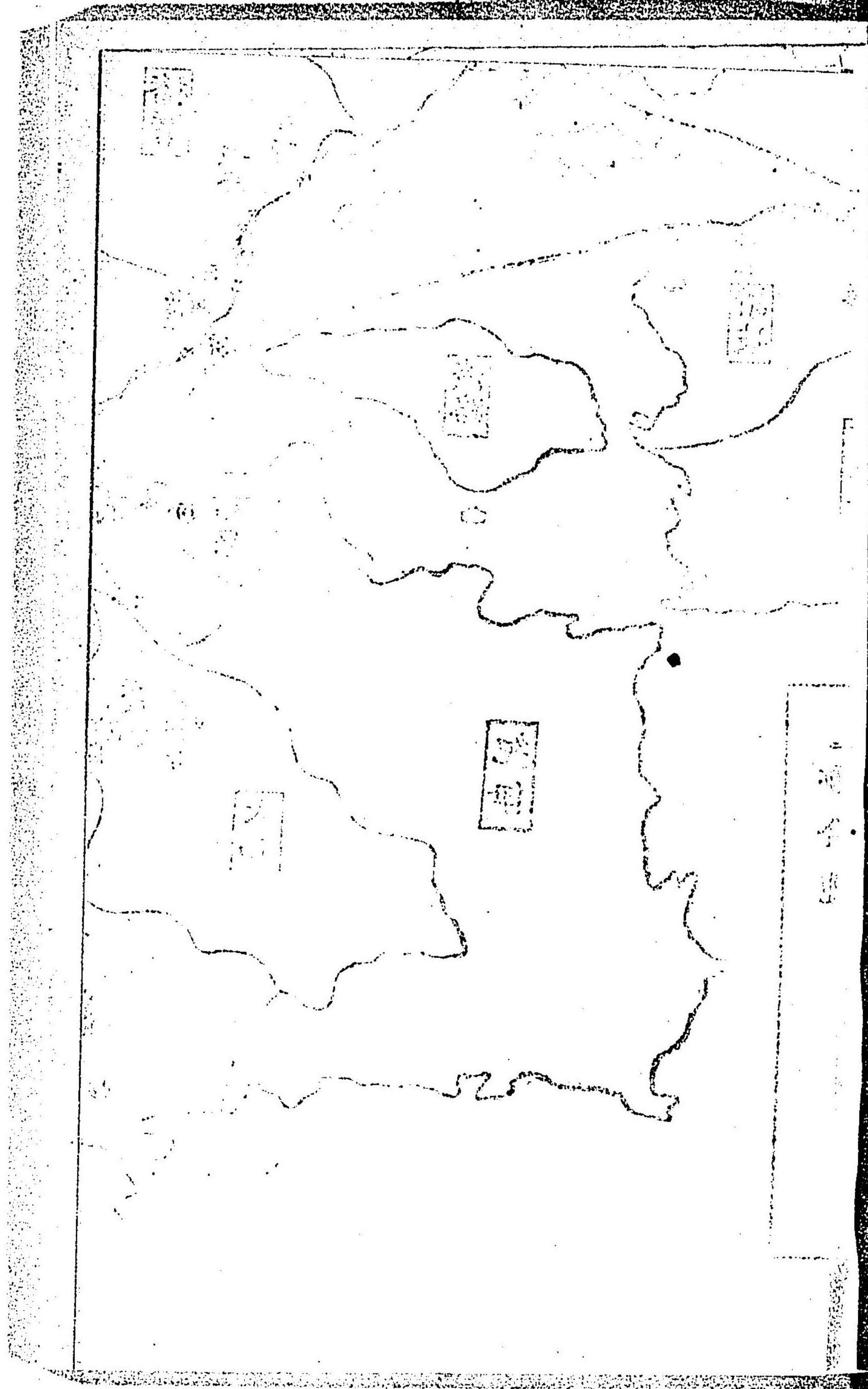
(十)

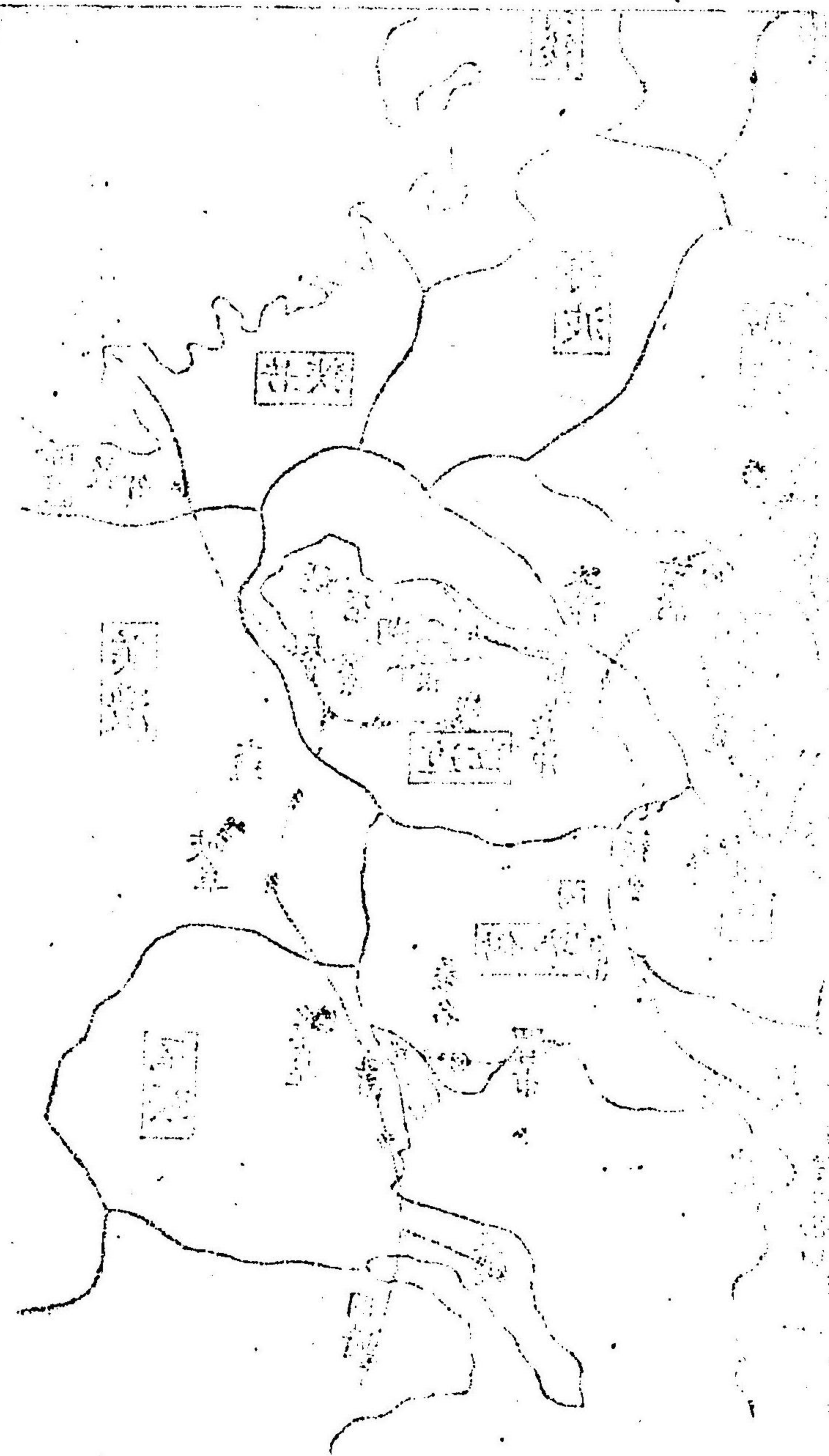
● 同國彦根には多賀神社あり、湖邊には天寧寺、五百羅漢、大洞山あり、金剛輪寺、百濟寺の古建造物あり、樂々園あり

● 山城伏見には桓武帝の御陵あり、豊公古城跡、桃山あり、其他名所多し

以上の各地は、先きに述べたる如く關西各地の聯合になる設計ありて、汽船、漚車、馬車、人力車等の便利割引を計り、或は商品、古器物の展覽會を開き、神社佛閣には寶物什器を拜觀せしめ、又は開扉の企てをもある等

この折程旅客の來遊に、好機なる折はあらしかし、さて京都を起点として、以上の關西各地へ出掛ける鐵道、及汽船の航路等は、官設私設になりて、この際なるべく旅客に便利を與ふるに相違なかるべく、又その發着數の如きも、從來より必増加あるへし、從て時間表にも大改正あること、必然なれば、こゝには心ならずも此時間表を掲出せず、依て關西一覽圖を挿出せり、就て一覽せられよ





○京都の名所古跡

第一地理概畧

山城國東南は近江、伊賀、大和に接し、西北は河内、攝津、丹波に界す、連山三面を圍み、中間より南方に通して、地勢較平坦なり、國中八郡あり、愛宕、葛野、乙訓、紀伊、宇治、久世、綴喜、相樂とす、京都東は淨土寺、鹿ヶ谷、南禪寺の山嶺を以て、近江國滋賀郡と堺し、更に遙に南し、栗田口、清閑寺、今熊野の山嶺を以て、宇治郡と腹背を分ち、南は紀伊郡伏見、及稻荷、柳原、東九條、葛野、東盤小路等に接し、西は大將軍、聚樂廻り、西の京、壬生、中堂寺、朱雀、八條、西九條、唐橋等に隣し、東北は鴨川を隔て、愛宕郡下鴨、田中の二村と相隣み、北は同郡鞍馬口、小山、東紫竹大門を負ふ、東西二里九町、南北一里三十町、人口凡三十萬あり

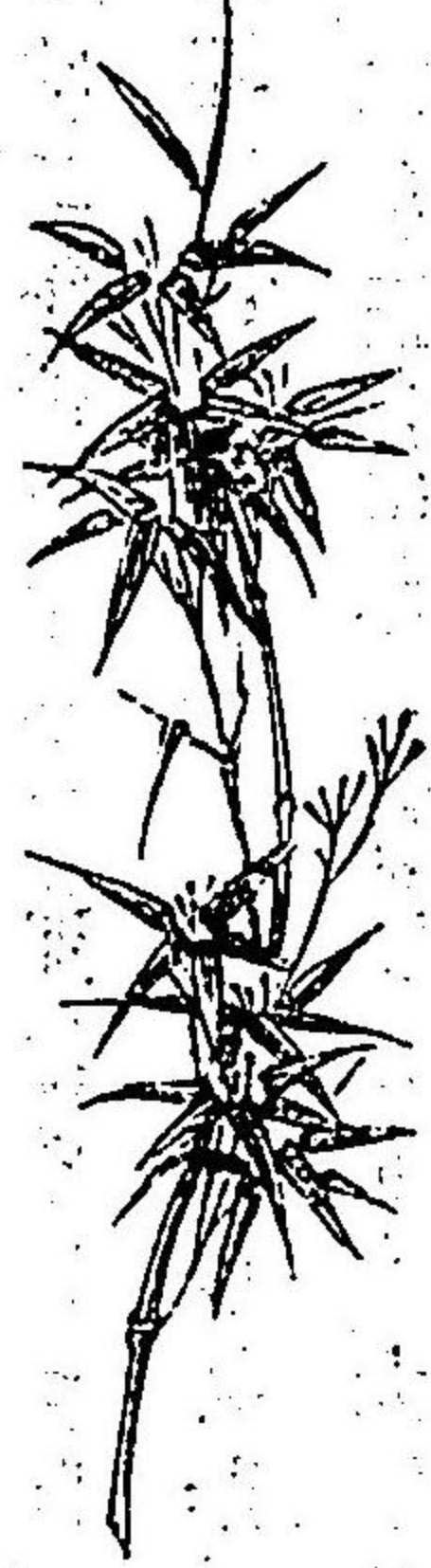
市街は俗に碁盤の目と謂ふ如く、縦横の道路、總て規矩正しく迂曲なし

道筋の南北に通ずるを縦町といひ、東西に通ずるを横町といふ、一條より九條までの大路は、皆東西に通ずる街路なるを以て、横町に属す、町々の唱へは、何町通何町上るといひ、下るといひ、東へ入る、西へ入るといふ、市内は敢て繁華と云ふにはあらねども、我國第三の大都會なり、寧ろ嚴肅清潔と謂つへし

國內山の大きな者は比叡山、愛宕山、嵐山、大悲山、鞍馬山、鷲峰山、笠置山等川の大なるもの、加茂川、桂川、又大堰川、木津川、宇治川、淀川等とす

氣候は北部は寒氣強く、南に行くに従ふて暖なり、然れども夏の暑さも冬の寒さも、共に強き方なり、華氏の寒暖計にて夏は通例九十三四度、冬は四十二三度より、三十二度以下に降ることあり、人情風俗は、國の北部は山地にして、交路少きが故に、人民は大低質朴にして古風を守り、主に樵業を營めり、南部は人民活潑にして、稍進取の氣

象ありて農業を營むもの多し、又京都市民は温順緻密にして、雅美を好み、飲食を節して衣服に奢り、身体は一般に柔弱にして、工商を業とする者多し、住民は概して美術工藝に巧みなるを以て、當市にて製したる織物、漆器、陶器、其他種々の雜具等は甚美麗にして、内外國の大に賞賛する所なり



皇居

御苑の中央北部に位す

第二市内中央の部

孝明天皇安政二年御改築以來、連綿として壯嚴なり、南門を建禮門と云ひ、東門を建春門と云ふ、抑も平安城の興基は、人皇五十代の帝桓武天皇延暦十二年正月甲子の日詔ありて、大納言藤小黒麿、左大辨古佐美等に山背の國の勝地を視せしむ、勅に従ひて、かしこの郡縣をめぐりて、上奏して曰、當邦宇多邑は、地勢郁郁として四神相應し、有徳無疆の皇洲なり、速かに新都を開き、帝城を造らしめ給は、萬代不易の都なりとそ申ける、これに因て同年十二月辛亥の日、參議治部卿吉足、志濃王を加茂大神に遣はしめて、遷都の由を告たまひ、同じき三月己卯の日、天皇葛野に行幸ありて、新京の地理を叙覽し玉ひ、五位以上及諸司主典をして、役夫を進め、新都の宮城を造營し、九重を開き、四方の

洛城には陸を堀らせ、廢を興し、絶たるを繼ぎ、鴻業を潤色し玉ふ、同十三年十一月に詔ありて、此國は山河襟帶し、自然に城となる故に、山背の文字を山城と改め玉ふ、即ち都を平安京と號け玉ひける、延暦十三年より明治二年まで、一千七十餘年、一たひ茲に足に入る、者、誰か感極つて、皇祚の無窮萬歲を祝せさらん
民やすく國ゆたかなる御代なれば
きみかちとせを誰か祈らぬ

一條内大臣

仙洞御所

皇居の東南に位す

御苑

上京鳥丸の東五町九太町の北十町の間を云ふ

假山水あり、神祠あり、梅林櫻林あり、加之ならず、叡岳の清氣を迎へ、眸中爽快、實に無比の芳園なり

京都府廳 下立賣通新町西へ入町

尋常中學校 京都府廳の北隣

別格官幣護王神社 烏丸通下長者町にあり

祭神和氣清麿公

京都地方裁判所 九太町通柳馬場東へ入町

京都博覽會場 裁判所北隣御苑内にあり

京都美術學校 博覽會場の東隣

尋常師範學校 寺町御門外にあり

別格官幣梨木神社 清和御門外にあり

祭神三條實萬公

京都療病院 清和院御門の東にあり

清淨華院 寺町廣小路上の町

淨土宗鎮西派四本寺の隨一〇中興向阿上人〇當寺往年回祿す今再

建中(四月十九日より廿五日迄七日間法要)

本満寺 清淨華院の北にあり

日蓮宗本山〇開基日秀上人(五月七日より九日まで三日間法要)

相國寺 御苑の北にあり

禪宗五山第二〇開基夢窓國師〇永徳三年足利義滿の建立〇法然水

松鷗軒にあり〇黃門定家の墓普光院にあり〇當寺伽藍猶巍々たり

境内頗る幽棲禪味餘りあり

同志社 相國寺の隣にあり洋風の建築華麗なり

上御靈社 室町頭にあり

祭神早良親王、伊豫親王、藤原夫人、文太夫、橘逸勢、藤原廣嗣、吉備大臣、火

雷神已上八座〇天慶三年に鎮座する所なり

妙覺寺

新町頭にあり

日蓮宗本山○開基日實上人○什寶には日蓮筆紫印金の曼陀羅及茶羅角龍の曼陀羅あり○狩野家數代墓あり

大應寺

妙覺寺の西にあり

天台、眞言、禪三宗兼學○開基虛應和尚○後花園院御茶毘所當寺内にあり、蓋し此地は悲田院の舊趾なり

本法寺

大應寺の南にあり

日蓮宗○開基日親上人

妙顯寺

小川通寺の内上町

日蓮宗○開基日像上人○當寺は京師に於て日蓮宗弘通最初の寺にして後醍醐帝勅願所なり○本尊釋迦佛は黄金長ケ三寸の像にして日蓮上人持念佛なり

報恩寺

小川通上立賣上る町

淨土宗○開基明泉和尚○什寶には興聖菩薩所持の佛舍利、及袈裟等并に四明陶俯筆虎の圖あり、此圖は秀吉の時聚樂亭にあつて、夜々聲を發せりと、依て世人鳴虎と稱す

妙蓮寺

寺の内小川西へ入町

日蓮宗○開基日像上人○什寶に日蓮上人筆法華曼陀羅あり、祈雨の本尊と號す

本隆寺

智恵光院通五辻北へ入町

日蓮宗○開基日眞上人

歡喜寺

上立賣通智恵光院西へ入町

眞言宗○嵯峨天皇勅願所にして弘法大師を開基とす○本尊歡喜天は弘法大師の作

般舟三昧院 今出川通糸屋町の西にあり

天台、真言、律、浄土四宗兼學○開基圓慈惠篤和尚

淨福寺 一條淨福寺にあり

浄土宗○開基弘運社深譽上人

大超寺 淨福寺の西一丁にあり

浄土宗○本尊は惠心僧都の作にして、世に之を神明の作と云ふ

二條離宮 堀川二條の西にあり

當城は永祿十二年織田信長の築く所にして、同年四月之を足利義昭に與ふ、後一たび破壊せしか慶長七年再建す、維新の際太政官代にあられ、次て京都府廳となり今は大に造營して離宮とせらる

神泉苑 御池通大宮西へ入町

眞言宗○善女龍王社は池の中島にあり○當所昔は封境廣大、天子御

遊覽の地、即ち大内裏の遺跡にして重々の由來ある名所なり、弘法大師の雨乞、鸛淑威を辱ふして五位の爵を拜し、鶴は池中に潜んで金覆輪の太刀を捧げ、小野小町和歌を詠して雨を降らし、祇園會もこゝに集る等、續述に違あらず、然れども昔時より荒廢に及び今はその舊趾を存す

不來乎藥師 釜座二條上る町

本尊傳教大師の作○日本七佛の隨一

草堂 寺町通竹屋町にあり

天台宗○開基行圓上人○西國巡禮第十九番の靈場

下御靈社 草堂の北にあり

祭神は上御靈に同じ

本誓寺 一名高田御坊、河原町通二條上る町

眞宗高田專修寺派別院○堂は秀吉の北政廳の化粧殿なり

妙満寺 寺町通二條下る町

日蓮宗妙満寺派本山○開基日什上人○道成寺の鐘當寺に存在せり

本能寺 妙満寺の南にあり

日蓮宗本山○開基日隆上人○織田信長の本寺に由縁ある事は世人の知る處なり

頂妙寺 仁王門通川端東入町

日蓮宗○開基日祝上人○樓門に安んずる二天像は運慶、安阿彌の作と云ふ

檀王法輪寺 三條大橋東詰の東北にあり

淨土宗○應仁亂後荒廢し慶長年中袋中上人再建ありて梅檀王院と號す

瑞泉寺 三條小橋の南にあり

淨土宗○開基桂叔和尙○關白秀次公母瑞龍院秀次公追悼の爲めに建立す

誓願寺 新京極六角にあり

淨土宗西山派本山○天智帝勅願にして開基は惠隱僧都○此地一帯南四條より北三條まで、新京極と唱へ、東京の淺草、大坂の千日の如く種々雑多の見せ物、遊藝、寄せ等、并に雜貨を商ふ家屋軒を連ね、尤も繁昌熱鬧の地なり

圓福寺 新京極蛸薬師東へ入町

淨土宗西山派本山○開基西山上人

蛸薬師 全寺境内京極の側にあり、永福寺と號す

本尊薬師佛は傳教大師の作にして石像なり○蛸薬師は淨薬師の轉

訛なりともいひ、又昔し當寺内の僧老母を養ひしに、母病める時、蝸を食せんことを望む、其子至孝なるか故に、ひそかに之を求め篋に入れ携へ歸り、蓋を開くに蝸を見す、藥師經あり、後母藥を用ひすして病平癒す云々の由緒ありとも云へり

錦天神社 新京極錦小路にあり

祭神管公

六角堂頂法寺 六角東洞院西へ入町

天台宗○開基聖德太子○本尊如意輪觀音一寸八分金銅の像、聖德太子の持佛にして、著各の者なり○西國巡禮十八番の靈場

空也堂 光勝寺とも云ふ、蛸藥師堀川東へ入町

念佛宗○開基空也上人は延喜帝第一皇子なりしか、無爲を樂むの志願ありて遂に出家し玉ふ、村上帝の御宇疫病流行し死する者多し、上

人之を憐み茶筌を以て茶湯を和し、觀音に供へたる後諸人に施すに病者忽ち平癒す、已後これを吉例とし、正月王服茶筌と名け市街に賣捌く○又昔攝者定盛なる者上人の教化に歸し、妻子を具し頭は有髮の俗体にして、法衣を着し瓢を敲て上人御作の和讃を誦ひ、市中を徘徊して淨土往生の因を勸めけり、今猶その遺風を存す

本願寺文學寮 松原通大宮西入町にあり

本國寺 大宮通松原下る町

日蓮宗大本山○開基日蓮上人○當寺始め相州鎌倉松葉谷にあり、法華堂と名く當宗最始の寺院なり、貞和元年光明帝の勅により今の地に移轉す○本寺立像堂に安置する釋迦佛は、伊豆國伊東の海底より漁網にかゝりて出現し玉ふ、靈像なり○清正公堂には加藤肥州を祭る○人曆社方丈の庭にあり、足利尊氏樓閣を此所に築き觀柳亭と號

せり○本寺藏する處の什寶頗る多し

本派本願寺 本國寺の南にあり

眞宗大本山○當寺草創は龜山帝の御宇文永九年、見眞大師息女覺信尼公勅を奉し、洛東大谷に大師廟堂を建立し、勅願所として龍谷山本願の號を賜ふ、中興蓮如上人の代山科郷に移し、證如上人の代攝州石山に建て、顯如上人の時二品親王の勅書を賜り、及御門跡號の勅許を蒙り、次て寺を紀州鷺の森に移し、遂に天正十九年八月今の地に固定す○御影堂、阿彌陀堂、對面所、白書院、黒書院、鐘堂、大鼓堂、唐門、滴翠園等何れも有名のものにして、繪畫は悉く狩野家代々の名筆になり、庭園は清幽閑雅稀有の芳苑なり

興正寺 本願寺の南にあり

眞宗興正寺派本山

大谷派本願寺 烏丸通七條上る町

眞宗大谷派大本山○當寺草創は本派本願寺十一世顯如上人の嫡子教如上人、慶長七年徳川將軍の台命に依て、六町四方の土地を受け新に堂宇を建立し、東本願寺門跡と稱す○堂殿は屢々回祿せりと雖も先年來末寺信徒の奮勵によりて、祖師堂、阿彌陀堂、鐘樓等を再建せり殿舎樓門今正に建築中なり○東殿は間の町珠敷屋町にあり、河原院の舊蹟にして當寺の別館なり、池水は高瀬川の水を引き、臨池殿の庭は小堀遠州の好みにして風光奇絶なり

平等寺 一名因幡藥師堂、松原通烏丸にあり

眞言宗○開基光朝禪師○本尊藥師佛の由來は、元と天竺祇園精舎の一院に安置せる所にして、釋尊梅檀木を以て刻み玉ひし尊容なり、後飛來して因幡國加露津の海底に沈めり、天徳三年橋行平之を引上げ

長保五年行平の居館に飛來し玉ふ、當時行平基盤を以て蓮臺に代ゆ
次て當寺を建て、安置すと云ひ傳ふ

佛光寺 高倉佛光寺にあり

眞宗佛光寺派本山○當時門跡號は土御門帝御宇寛正六年十三世光
教上人に始まる

大雲院 寺町綾小路下る町にあり

淨土宗○開基貞安上人○天正年中秀吉公の命を受け織田信忠郷追
福の爲め建立す

新善光寺 一名御影堂、五條通寺町西へ入町

時宗○長和年中檀林皇后の建立○開基弘法大師、中興王和上人○坊
中扇を賣りて業となすことは、平敦盛の室此寺に閑居し、阿古女扇を
製せられし由緒あるによる

五條大橋 五條鴨川に架す

近年擬寶珠欄干に改修せらる古
風にして優美なり

蒲團着て寐たる姿や東山

嵐 雪

大道珍皇寺 松原通建仁寺町の

西にあり

眞言宗○開基慶俊法師○篋堂は
俗に小野篁此所より冥土へ通へ
りと云ふ

六波羅密寺 珍皇寺の西にあり

眞言宗○開基詳ならず○本尊十

五條大橋より東山を望む圖



一面觀世音は空也上人の作にして、天曆五年惡疫流行の時、上人本尊を車に乗せ洛中を牽き回せり(空也堂の部を見よ)○西國巡禮拾七番の靈場

蛭子社 大和大路松原土る町

當社に安する蛭子像は建仁寺の開祖榮西の祖父薩摩守貞政の作なり○當社もと建仁寺内にあり後世茲に移すと云ふ

建仁寺 蛭子社の前

禪宗五山の第三○開基千光國師○當寺草創は土御門帝の勅願にして、源賴家敷地を寄附し、建仁三年伽藍悉く造營し了りぬ、依て年號を採りて建仁寺と號す○摩利支天祠堂あり、本尊は清拙和尚の作と云ふ

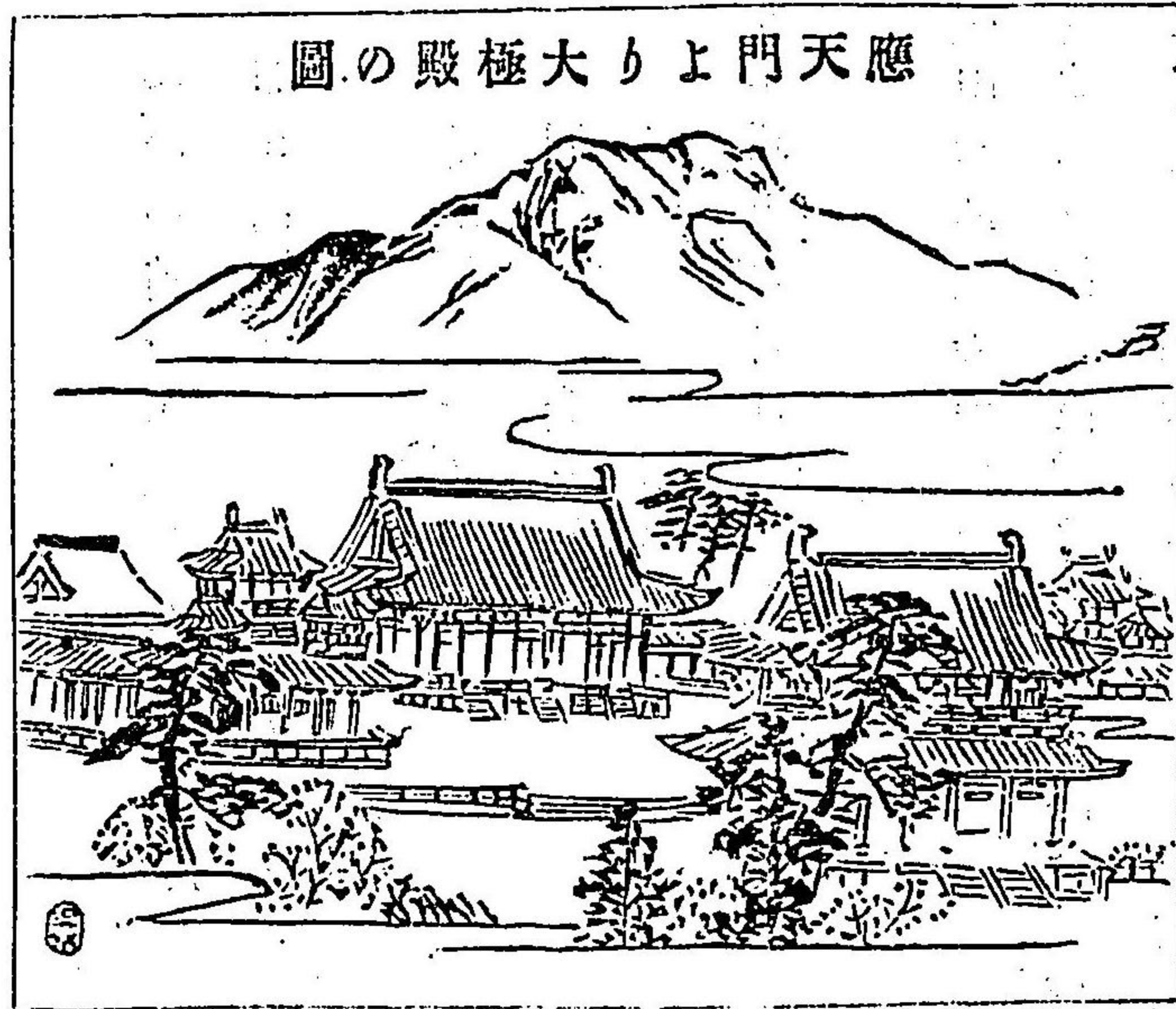
○當寺殿堂伽藍魏々として禪味あり(五月十七日より廿一日迄五日間法會、六月廿二日七月二日同三日三日間法會、五月一日より廿一日迄廿一日間展觀)

第三東北之部

大極殿 二條通の東北にあり

明治廿八年桓武天皇壹千百年祭典紀念の爲めに建築せらるこれに附属の建物は蒼龍樓、白虎樓、應天門等にして總て古代に模擬し、碧瓦朱楹實に究壯の建築なり、去年勅ありて官幣大社に列せられ平安宮と號す平安宮は大極殿の後本年三月十五日にあり祭神桓武天皇御魂鎮座式を行はせられ、同四月三十日祭典を舉行すること

應天門より大極殿の圖



、なれり

第四回内國勸業博覽會

大極殿の前疏水運河の沿にあり

四月一日より開會し七月三十一日に閉會す○入場券は左の三種とす

一日曜日入場券

紅色

壹枚代價金拾錢

一土曜日入場券

白色

同 金三錢

一平日入場券

青色

同 金五錢

入場券は一人一枚に限る、但滿五年以下の者は之を要せず

疏水運河

京都大津間の運漕及び水力利用、田圃灌溉等の便を計り開鑿せる溝渠にして、源を近江琵琶湖に發し、廿二町餘の隧道其他二小隧道を経て、三條蹴上に至り分れて二流となり、一は南禪寺水路、若王寺門前を

過ぎ、吉田の北邊を西行して堀川の上流に注ぎ、一ハインクラインの下に濶り西流して鴨川に入る

南禪寺

禪宗五山の一○當所は舊龜山法皇の離宮なりしを、弘安年

中開基大明國師に賜り禪刹となす○金地院は寺内にあり開基大業和尚○當時は有名の禪刹にして狩野家代々の名物畫を什寶とせり

○駒ヶ瀧は後山にあり、避暑に適す

禪林寺

一名永觀堂、○禪寺の北にあり

淨土宗西山派本山○當寺は清和天皇勅願所にして、貞觀年中眞紹僧都の創建なり、後西山上人の弟子西谷淨音和尚に至り、眞言宗を改めて淨土宗となる○本尊は世にみかへり本尊と號す、蓋し中祖永觀律師永保二年二月十五日晨朝、行道念佛せるに本尊壇を下り共に修行す、律師信感の至り乾の方に向て暫く躊躇す、其時本尊左に顧み永觀

遅しと言ひ玉ひし由縁あるによる○境内に池あり楓樹數十株、其周
邊に樹つ秋景絶佳なり

若王寺 永観堂の北にあり

舊天台宗にして修験堂を兼ねたりしか、維新後寺を廢し若王子社と
號す、境内清幽閑雅、四時騒客踵を繼ぐ、就中避暑觀楓の勝地たり

光雲寺 若王寺の北にあり

禪宗○南禪寺天授庵英仲和尚の再興○佛殿の後に瑪瑙石の手洗鉢
あり

靈鑑寺 鹿ヶ谷にあり

禪宗○開基靈鑑院尼公

談合谷 鹿ヶ谷の上二町余にあり

當所は成親俊寛康頼等平氏を亡すの密謀をなせし古跡なり

住蓮山安樂寺 鹿ヶ谷にあり

淨土宗○當寺は圓光大師の舊跡にして、大師の徒第住蓮、安樂の二僧
を開基とし、後鳥羽院の愛妃鈴虫、松虫の二嬪一向專修の勸めに歸し
忍ひ來りて尼となりし所なり

萬無寺 一名法然院、全所にあり

淨土宗○開基萬無心上人にして圓光大師の舊跡なり

樓門の瀧 靈鑑寺の上三町余にあり

如意獄 全所の絶頂を云ふ

毎年八月十六日の夕山腹に大文字を點火す

黒谷金戒光明寺 若王寺の西岡崎村にあり

淨土宗鎮西派四本山の一にして、叡山西塔の黒谷を摸し新黒谷と稱
す、圓光大師の舊跡なり○熊谷堂は熊谷蓮生坊自作の像、及平教盛の

畫像を安置す

聖護院門跡 黒谷の西にあり

天台宗○開基は智證大師にして、中古後水尾天皇皇子御住職已來今に門跡地なり

熊野神社 聖護院の西にあり

後白河上皇の勅願に依て熊野新宮を勸請し玉へり、應仁の兵燹後殿舎輕微なり

眞正極樂寺 一名眞如堂、黒谷の北にあり

天台宗○開基戒筭上人○此地東山の北部に當り閑林幽雅の地たり

迎彌寺 眞如堂の乾の方にあり

時宗○本尊不空羅索觀音は惠心の作

大興寺 迎彌寺の西にあり

吉田神社 吉田村神樂岡にあり

官幣中社○清和天皇御宇貞觀二年中納言山陰郷の勸請○祭神は健御加豆智命、天兒屋根命、比賣神、伊波比主命、巳上四座○内外太神宮は八神殿の東西にあり、又日本國中總攝社は本殿の左右にあり(五月三十日奉告祭)

第三高等中學校 吉田村神樂岡の西にあり

明治廿二年大阪より移す

智恩寺 一名百萬遍、高等中學の北田中村にあり

淨土宗鎮西派四本寺の一○草創は慈覺大師○當寺の什寶には弘法大師筆利劍の名號、圓光大師筆一枚起請文、及び趙州宋王より平清盛に贈りたる松蔭硯等あり(四月十八日より廿七日迄十日間法要、展観)

慈照寺 一名銀閣寺、鹿ヶ谷の北淨土寺村にあり

禪宗○開基は夢窓國師○此所足利義政閑居の別業にして東山殿と

稱す○茶席は義政の製作にして茶亭四疊半の濫觴なり○二重の高閣は金閣寺に准して銀閣と號し、上段を心空殿、下段を潮音閣と云ふ又庭苑は東山殿相阿彌に命し造らしめしものにして、飛泉あり、向月臺あり、銀沙灘あり、及種々の奇石を集め、風光美妙四時の壯觀足らすと云ふことなし

我庵は月まづ山のふもとにて

かたむく庭のかけをしそ思ふ

義 政

金福寺

一乗寺村にあり

禪宗○山内に蕪村、吳春、景文の墓あり、又山上に芭蕉翁舊棲の庵あり

北山本願寺別院

一乗寺村にあり

見真大師の舊跡にして本派本願寺に属す

詩仙堂

全村にあり

石川丈山翁閑居の舊跡○堂の四壁には狩野尚信、漢晋唐宋の詩人三十六家の像を畫き、丈山自作の詩を題せり、又翁の遺物種々ありて存す

雲母寺

雲母坂の入口にあり

天台宗○元慶七年慈覺大師の遺命により相應和尚の建立

比叡山延曆寺

國中の高山にして延曆寺はその頂上に建てり、殿堂伽藍實に古代の巨刹たり、名勝古跡の名あるもの擧て數ふるに遑あらず、又江州琵琶湖を見下し絶景尤も可なり

林丘寺

雲母寺の下にあり

後水尾帝皇女照山元瑤禪尼公深く禪に歸し玉ひ、開て禪刹となし玉

ひし所なり

修學院上下離宮 修學院村にあり

後水尾天皇以來の離宮にして庭園の風致尤も雅美なり

御蔭社 高野村にあり

當所は玉依姫別雷神を生み玉ひし地なり、故に御生山と云ふ

三宅八幡宮 全村にあり、俗に蟲八幡宮と云ふ

當社は小兒蟲病一切に感應ありとて參詣人多し(五月六日より十九日迄十四日間展祝)

魚山三千院門跡 大原村にあり

天台宗○開基良忍上人

袈裟掛石 大原村の北、若狹街道にあり

古知谷阿彌陀寺 勝林寺より北十八丁にあり

淨土宗○開基輝誓上人

寂光院 古知谷の南にあり

淨土宗○開基弘法大師○廬の清水は寂光院の邊にありて有名なり

大雲寺 北岩倉にあり

天台宗○開基智辨僧正

鞍馬寺 鞍馬の山上にあり

天台宗○開基鑑眞和尚○延暦十六年藤原伊勢人建立○本尊毘沙門

天は當山感得の像なり○例年一月初寅の日諸人參詣す、維新前は女

人の參詣を禁せり○僧正谷は源牛若丸異人に遭遇し擊劍の法を傳

習せし所にして種々の遺跡あり

住なる、都の月のさやけさに

なにかくらまの山は戀しき 社院中務

貴船神社 鞍馬の西貴船村にあり

官幣中社○祭神水神罔象女（五月六日奉告祭）○龍王瀧は本殿の北三丁にありて雨乞の場所なり

大悲山定峰寺 鞍馬の北五里にあり

天台宗○平相國清盛の建立○乳岩あり岩の状平らにして乳房十四あり

普陀洛寺 一名小町寺、市原村にあり

當寺は古昔清原深養父幽棲の地なり○開基延果僧正○庭に小野小町四位少將の塔あり

加茂別雷神社 通稱上加茂社、上加茂村にあり

官幣大社○祭神別雷神○神殿ハ天武天皇白鳳六年御造營にして、奇岩後に聳へ御手洗川の清水前に流れ、一拜神威の壯嚴を感す○岩本社橋本社は和歌の神なり○片岡山あり、假寝の芝あり○祭祭は欽明

天皇の創め玉ふ所にして、例年五月十五日勅使參向ありて鄭重の儀式を行はせらる、これを諸祭節の最上と云へり

御菩薩池 幡枝の南にあり

本涌寺 松ヶ崎にあり

日蓮宗○開基日生上人○大黒天安置しありて參拜人多し

妙泉寺 全所にあり

日蓮宗○開基日像上人○毎年八月十六日堂前に於て村人題目踊をなし、後山に妙法の二字を點火す

山端 松ヶ崎の東北高野川の邊にあり、一二割烹店あり

加茂御祖神社 下加茂村にあり、通稱下加茂社

官幣大社○祭神玉依姬命、建角身命○神殿は天武天皇白鳳六年御改造にして結構壯麗なり○糺の森、糺の池は本殿の東にあり、清泉茂樹

の間を涌出し下流を御手洗川となす、石川、或は蟬の小川と呼ぶ、納涼
及郭公の名所なり

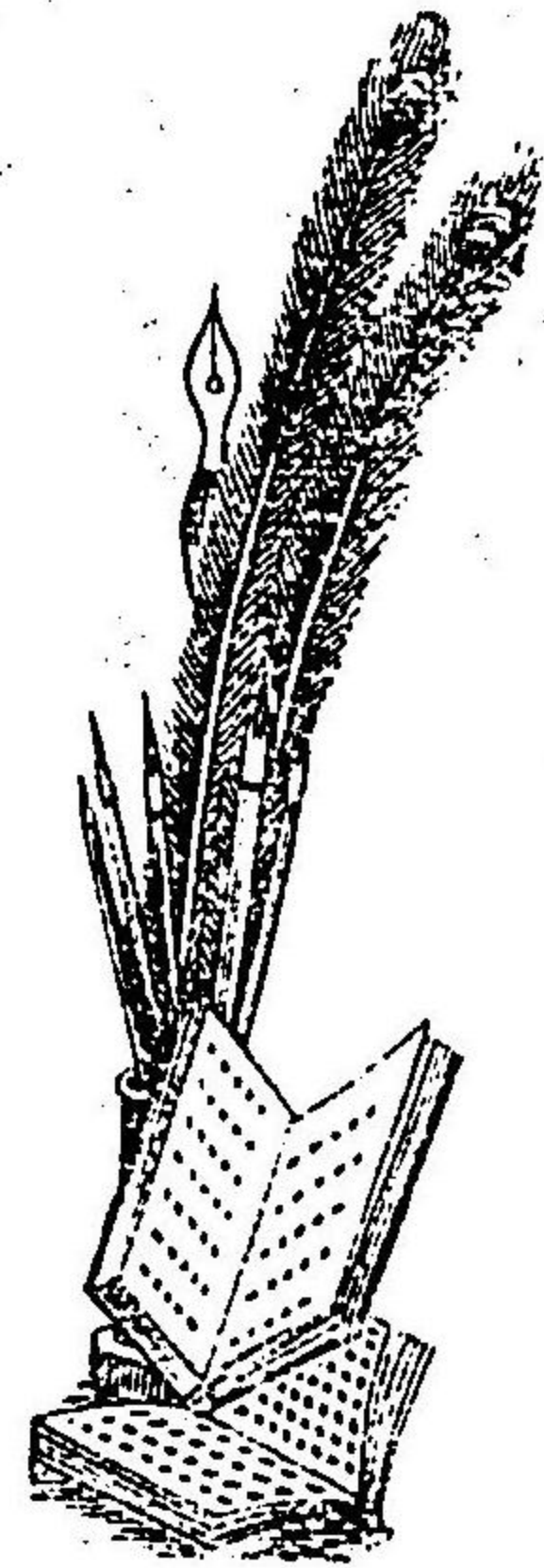
千早振加茂のやしらの姫小松

よろつ代ふとも色はかはらし

敏 行

河合社 右社の南にあり

當社を河合と號するは高野、加茂の二川社の南に於て合するか故なりと云ふ



第四西北之部

岩屋金峰寺 出谷村の北にあり

眞言宗○本寺は弘法大師の密道場なりと云ふ

棧敷ヶ嶽 岩屋北三十丁餘にありて惟高親王の遺跡なり

神光院 西加茂にあり

眞言宗○開基弘法大師

靈源寺 全所にあり

後水尾天皇勅願所にして佛頂國師の開基なり

正傳寺 全所にあり

禪宗○開基東岩宏覺禪師○一山楓樹多く紅葉の風景尤も佳なり○

毎年八月十六日夕後山に船形の點火をなす

氷室社 紫竹大門村の北三十町餘にあり

常照寺 鷹ヶ峰にあり

日蓮宗○開基日乾上人

光悦寺 全所にあり

日蓮宗○本阿彌光悦の創立にして初めは大虚庵と號せり、林道春當山の記を作る羅山文集に見ゆ

石門 鷹ヶ峰の北にあり

両岩あり高さ數丈門を構ふるに似たり、之を靈岩寺の石門と云ふ

道風社 杉坂にあり

小野篁社 東河内にあり

今宮神社 大宮の北紫野にあり

祭神疫神○一條院の御宇長岡山より茲に遷座す

大徳寺 今宮の南紫野にあり

禪宗五山の一○開基大燈國師○伽藍建立の資料は赤松圓心、全則祐寄附○山門は連歌宗、匠宗長の造營にして、閣上に利休の像を安す○方丈の門は明智光秀の寄進○眞珠庵は方丈の北にありて一休和尚住居の所なり、庵内諸畫は曾我蛇足軒筆○集光院に千利休墓あり○當寺院内幽棲閑雅禪味あり、又名畫名輻の寶物數多あり

建勳神社 舟岡山にあり

別格官幣社○祭神織田信長、同信忠公にして明治八年神號を賜ふ

七の社 舟岡の南にあり

上品蓮臺寺 千本頭にあり

引接寺 俗に焰魔堂と云ふ

大念佛は文永年中如輪上人の創始なり

大報恩寺 俗に千本釋迦堂と云ふ、引接寺の西にあり

眞言宗○開基求法上人

金山天王寺 一條通の北二町餘北野天満宮東の門通にあり

紅梅殿 天王寺前にあり

祭る所は菅神の愛せられし一夜飛梅の靈

清和院 又感應寺と號す、七本松一條の北にあり

眞言宗○開基一演僧正

北野天満宮 御前通一條にあり

官幣中社○天曆九年三月十二日管神御託宣により朝日寺の僧最珍
右京の文子等力を協せ靈祠を建つ、次て天徳四年右大臣藤原師輔猶
も神威を敬ひ神殿を改造す已來殿舎壯麗、參拜人踵を續く○祭神贈
太政大臣菅原道眞公○當社に加藤清正公寄附の大鏡あり其他寶物
數多あり

くもるへさうき世の末をてらしてや

あら人かみは天くたけけむ 僧正慈圓

平野神社 北野の北にあり

官幣大社○祭神天照大神、日本武尊、仲哀天皇、仁徳天皇○境内櫻樹多

し春時花光爛漫遊客多し(六月十六日奉告祭)

鹿苑寺 一名金閣寺、平野の西北にあり

禪宗○開基漱石○初め足利義滿の山莊なり後改めて寺となす○三
重の閣あり下段を鏡殿と號し、中段を潮音洞と號し、上段を究竟頂と
號し各名佛を安す○庭苑の風景善美を盡し、銀閣寺と相比んでその
名高し

眞如寺 葛野郡松原村の西にあり

禪宗○開基夢窓國師

等持院

真如寺の西にあり

禪宗○開基夢窓國師にして足利尊氏の建立○衣笠山は當院の後山なり

龍安寺

等持院の西にあり

禪宗○開祖は日峰禪師なれども勝元歸依の故を以て義天和尙を開基とす○堂内天井の畫は兆殿司の筆

妙心寺

龍安寺の南花園村にあり

臨濟宗妙心寺派本山○開基關山國師○當所初め花園天皇の離宮なり天皇深く禪に歸し玉ひ改めて寺となし玉ふ○境内に老松あり四派の松或は雪江の松と稱し縁起あり

雙の岡

妙心寺の西に當り三岡相双へるを云ふ

法金剛院

妙心寺の西南三町にあり

真言天台淨土禪四宗兼學○開基詳ならず中興圓覺上人

仁和寺

御室にあり

真言宗本山○當寺は光孝天皇の御願にして、仁和四年八月創立あり依て仁和寺と號す、又昌泰二年十月十四日宇多天皇御出家ありて此地に御室を構へ玉ふ故に御室と稱す、御門跡の號茲に始る、境内櫻樹多く其名世に高し

鼎きてぬけ道はなし花のやま

半時庵淡々

妙高寺

鳴瀧村にあり

禪宗○開基法燈國師、無礙和尚○當所は元花山院師繼卿の山莊なり彼の御忠季追福の爲改めて寺となす

蓮華峰寺

全村にあり

律宗○山上に安置せる五智如來石像は明曆年中江戸の人樋口平太

夫の安置する所なり云々

法藏寺 泉谷にあり

禪宗○開基百拙和尚

榊尾山高山寺 榊尾村にあり

華嚴宗○開基明惠上人○高山寺門前を流る、は清瀧川なり

榊尾山西明寺 榊尾の西四町にあり

真言宗○開基智泉法師

高雄山神護寺 榊尾の西南四町にあり

真言宗○光仁帝御宇和氣清麿上奏して建立あり神願寺と號す、淳和

帝天長二年空海に賜はり號を真言神護國祚寺と改む○納涼房には

大師像及文覺上人の像を安す○當寺の鐘は三絶と稱し本朝の名器

なり○什寶には弘法筆山水屏風あり○當所は紅葉の勝地にして、風

景の絶佳なるは夙に世人の知る所なり

もみち葉の色にめてつゝのはる也

江戸の高雄も京のたかをも

浪速國丸

月輪寺 愛宕山月輪の山腹にあり

開基は慶俊法師○當寺は空也上人、兼實公の舊跡○時雨の櫻は堂前

にあり

愛宕神社 月輪寺の東南十八町にあり

天應元年慶俊法師の創建にして、いげつ刺遇突智祭いづみ伊弉册命いか雷神破无神を

祭る○伊勢參宮せし者當社に詣るを例とし、又火災を除く神と崇む

清瀧 愛宕山の麓にあり、此邊の流水を清瀧川と云ひ大堰川に入る

祇王寺 上嵯峨村にあり

浄土宗○清盛の愛妾祇王、祇女、佛刀自等の隠逃せし所なり

三寶寺 祇王寺の南にあり

浄土宗○開基良鎮上人○歌石は門外にあり

二尊院 小倉山にあり

天台眞言律浄土四宗兼學○開基詳ならず中興法然上人○二條、鷹司
両家の菩提所及伊藤仁齋の墓あり○佛殿の後山に定家卿山莊の舊
地あり四月一日より七月三十一日迄百廿日間法要内拜

清涼寺 嵯峨釋迦堂と云ふ、二尊院の東北八町にあり

浄土宗○本尊釋迦佛は赤栴檀香木を以て作れる三國無双の靈像な
りと云四月一日より五月卅日迄六十日間法要 展禮

大覺寺 清涼寺の東三町計にあり

眞言宗○開基淳和帝第三皇子恒寂法師にして代々門跡地なり○當
所は舊嵯峨帝離宮なりしか淳和帝寺となし玉へり五月十四日より十六日迄三日間法會 四月十日よ

菖蒲谷 大覺寺の北二町にあり

平氏滅亡の後惟盛卿妻子蟄居の處なり

大澤池 清涼寺の東北にあり

廣澤池 大澤の東南にあり

寛長僧正の設くる所にして觀月の名所なり

遍照寺山 池の西北にあり

遍照寺舊跡は山の麓にあり、寛朝僧正坐禪の處なり

常寂寺 二尊院の南にあり

日蓮宗○開基日鎮上人○當寺什寶には高倉帝小督局に賜ひし東琴
と名くる名琴あり○南山に定家の社あり

野々宮 常寂寺の東南三町にあり

昔時伊勢大神宮へ齋宮に立せらる、内親王此所に於て三年間潔齋し玉ふ○社殿の構造尤も古風なり

龜山 天龍寺の西なる山なり、後嵯峨、龜山兩帝離宮の舊跡

天龍寺 常寂寺の南にあり

臨濟宗天龍寺派本山○開基夢窓國師○此地始め嵯峨帝の仙洞御所なりしを、足利尊氏後醍醐帝追福の爲め當時を建立し、光嚴帝の勅願に准せらる(四月十二日より十八日迄八日法會)

三會院 右全所

開基夢窓國師○此所龜山帝離宮なり、建武二年十月後醍醐帝開山國師に賜ひ寺となす

鹿王院 右全所

開基普明國師にして至徳元年足利義滿の建立

大堰川 源を丹波に發し保津

川となりて山城に入り、清瀧川

を合せて嵐山の下を過き、桂村

を経て桂川と稱せられ終に淀

川に注ぐ、此の川の上流嵐山よ

り保津村に至るの間、斷岩奇石

多く風景美妙舟行尤も愉快な

り

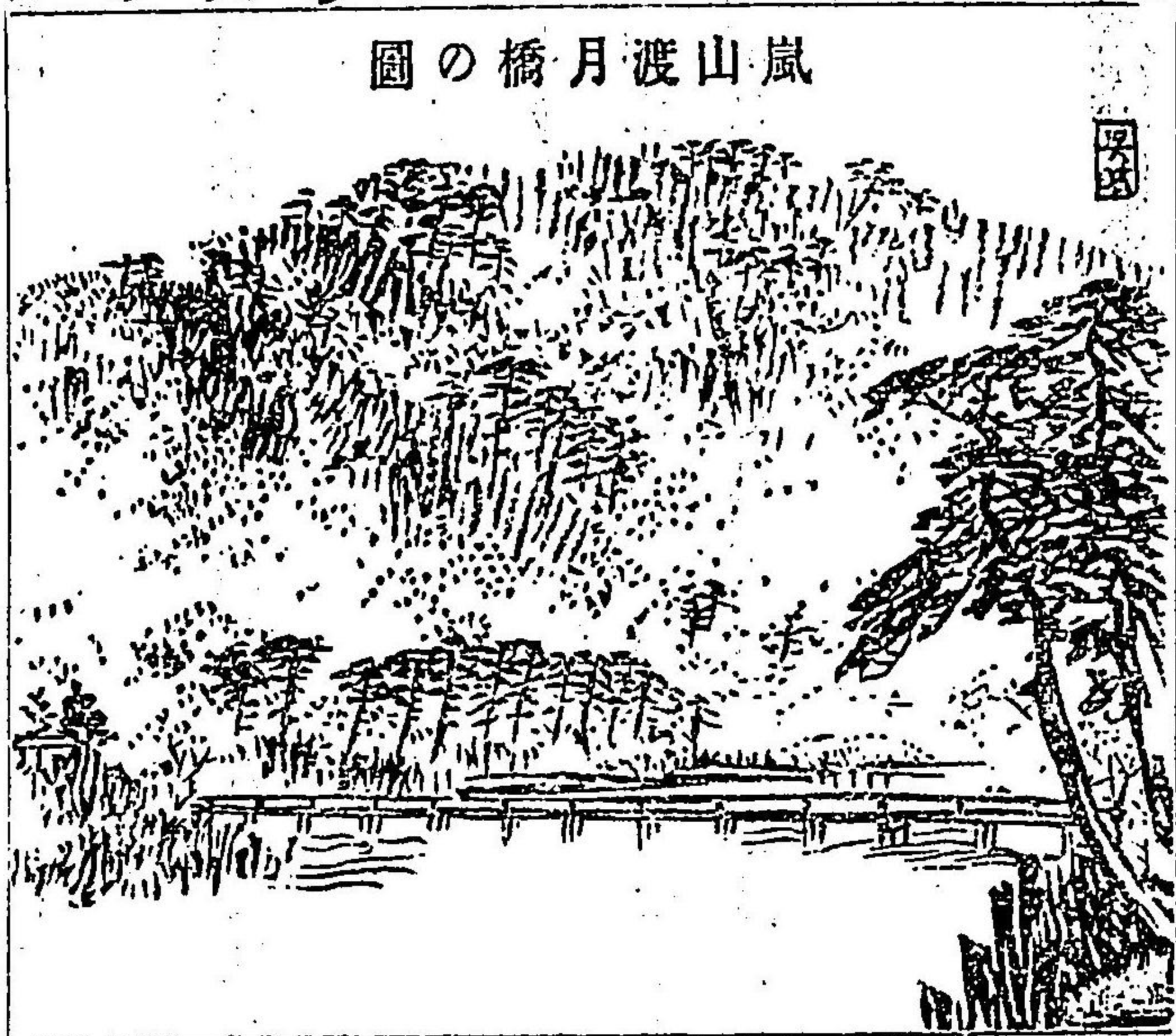
嵐山 龜山帝吉野の櫻樹を移

し玉ひ、山城第一の勝地なり、又

新緑に紅葉に、月に雪に四時の

觀ありと謂つべし

嵐山渡月橋の圖



六月や峰に雲かくあらし山
法輪寺 嵐山の南にあり

とせを

眞言宗○開基詳ならず中興道昌○本尊虚空藏菩薩○西行櫻は法輪寺の南貳町計竹林の中にあり

車折神社 下嵯峨にあり

太泰廣隆寺 二條通の西にあり

三論、眞言二宗兼學○當寺は聖德太子近臣秦川勝に命し建立せしめ給ふ所なり○太子堂前の石燈籠は古風にして、世に太秦形と稱す

(四月十四日より十六日まで三日間法要)

木島神社 木島村にあり



第五西南之部

壬生寺 綾小路通大宮西へ入町

眞言律宗○開基快賢僧正○壬生大念佛は中興圓覺上人の創始にして、例年四月これを執行す

長福寺 東梅津村にあり

禪宗○開基月林大嶮國師

梅宮神社 西梅津村にあり

官幣中社○祭神酒解神、酒解子神、大若子神、小若子神○當社は安産及酒造の祖神なり、境内に池ありて燕子花の名所なり

さらに今花咲く梅の宮はしら

たて、も千代のさかりをもみめ 慶 有

松尾神社 梅津の西にあり

官幣大社○祭神大山咋神、市杵

島姫神にして、日本第一酒造の

祖神なり

誰しかも松尾山の

あふひ草

かつらに近く

ちきりそめけん

順徳院

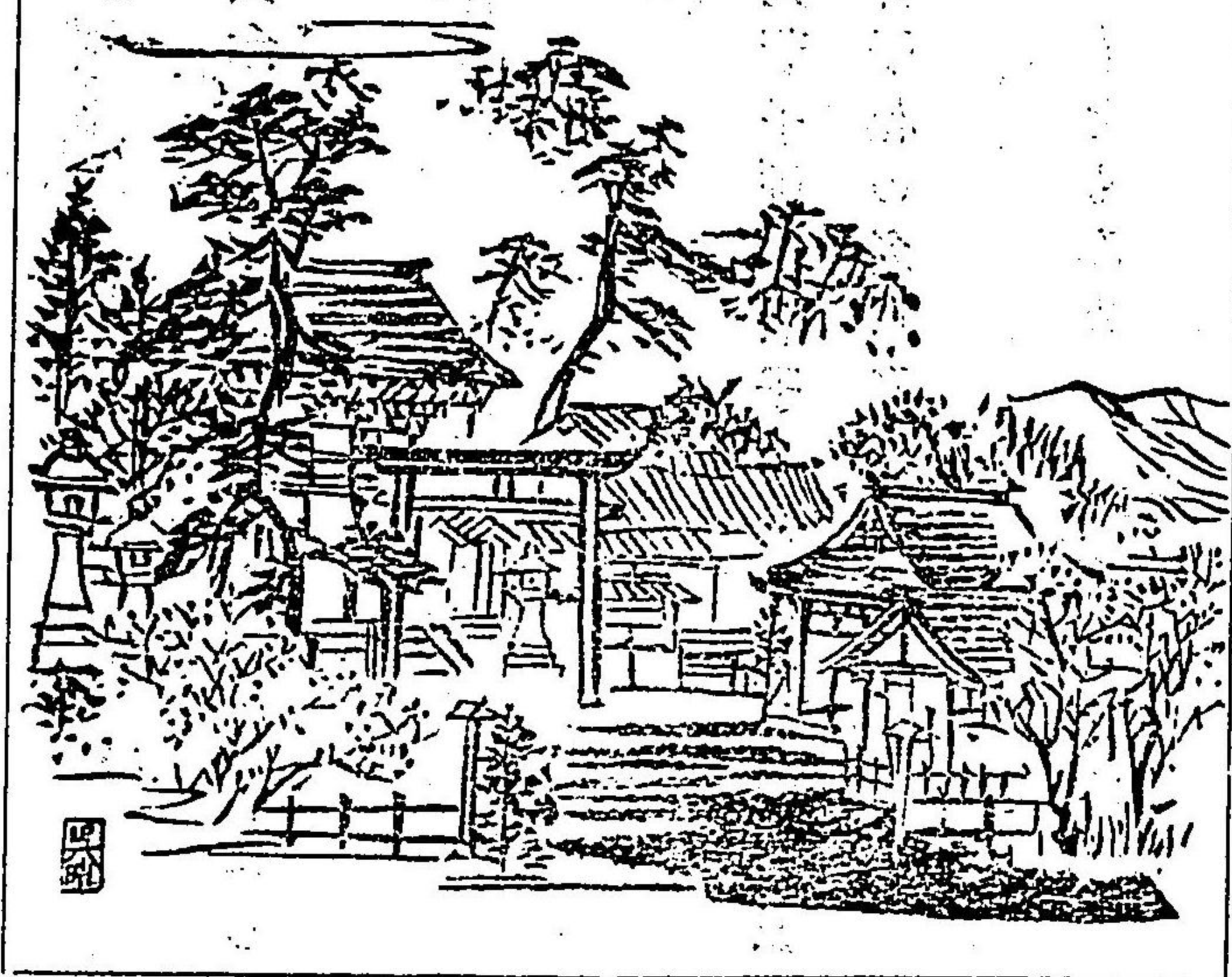
月讀社 松尾の南三丁にあり

華嚴寺 月讀の南谷村にあり

華嚴宗○開基風潭

西寺 舊名西芳寺、華嚴寺の東

松尾神社の圖



南松室村にあり

淨往寺 葉室にあり

久遠寺 川島村にあり

西山御坊と稱す、本派本願寺別院なり

大福寺 犬枝坂峠にあり、子安の地藏と云

春日社 大原野村林中にあり

官幣中社○祭神武甕槌命、齋主之命、天津兒屋根命、姫大神○當社は仁

明帝嘉祥三年三笠山より勧請し、平安城守護神と定め給ふ

勝持寺 一名花の寺、春日社の西北にあり

天台宗○開基役の行者にして、始め大原寺と號す、後文德帝伽藍を建

立し給ふ○境内櫻樹あり、清明の時節杖を曳く者多し(四月八日より廿一日迄十四日間法要展眺)

金藏寺 西岩倉にあり

天台宗 ○開基隆豐禪師

三鈷寺 岩倉南の灰谷の上にあり

天台真言律淨土四宗兼學 ○開基源算上人、中興西山上人、○本尊佛眼
曼陀羅は觀性法橋の筆にして、日本無比の曼陀羅と稱す

善峰寺 小盤山にあり

天台宗 ○開基源算上人(四月十二日より廿七日ま
で十四日間開扉、法要)

十輪寺 善峰の麓にあり

天台宗 ○本尊は花山法皇西國巡禮の始に詣て玉ひし觀世音なり ○
在原業平盪燒の遺跡あり

光明寺 粟生村にあり

淨土宗西山派本山 ○開基熊谷蓮生法師にして建久九年の創立なり
又寺號は四條帝の勅號なり ○當時堂塔は恰好比類なく工匠建築の

摸範となす

長法寺 光明寺南西二町にあり

長岡天満宮 開田村にあり

祭神菅公 ○境内風景絶佳、梅、櫻、杜鵑花、楓樹多し

奥海安寺 長法寺の西南七町にあり

真言宗 ○開基道雄僧都

楊谷觀音堂

淨土宗 ○本尊千手觀音は延鎮僧都感得の像にして、諸人參籠し眼病
を祈るに靈驗著しと云

圓明寺 楊谷の東南圓明寺村にあり

歸海印寺 下植野村にあり

觀音寺 山崎にあり

寶積寺

寶寺と稱す、觀音寺の南にあり

眞言宗○開基行基菩薩にして聖武帝勅願所なり○當寺の額は道風の筆にして庫に收む

天神八王子社

天王の社と云、寶寺の上五町にあり

妙喜庵

寶寺の麓にあり

禪宗○千利休此所に住して茶亭を設け、豊公時々來訪ありたりと云

離宮八幡宮

山崎にあり

祭神應神天皇にして貞觀元年僧行教勅を奉して創建す

男山神社

八幡にあり

官幣大社○祭神應仁天皇玉依姬神功皇后○貞觀二年大和太安寺僧

行教宇佐八幡宮御託宣の次第を奏聞す、朝庭依て神殿を當山に營み

玉ふ、建築宏壯美麗なり○石清水は本殿の東南にあり

やはた山あどたれそめしまめの内に

猶萬代とまつ風そふく

後鳥羽院

正法寺

男山の南志水にあり

淀城

岩成主税助か開く所なり、中古伏見城を移し建つ、又秀吉の妾淀君の舊住所なり

大橋、小橋、孫橋

共に秀吉初めてこれを架設す

淀橋姫

小橋の西にあり

乙訓寺

開田村にあり

向日明神社

向日町にあり

祭神鷓鴣羽葦不合尊○後山を勝山と云ふ、豊公征韓出陣の時此山の名を問ふ、社司勝山と答ふ以後この名あり(五月五日 祭典 瀬馬)

福田寺 下久世にあり

光福寺 一名藏王堂、上久世にあり

法傳寺 下鳥羽にあり

戀塚寺 法傳寺の北にあり

淨土宗○小塚あり袈裟御前の墓にして、遠藤盛遠上人の築く所なり

實相寺 全所にあり

日蓮宗○開基大覺上人○松永貞徳翁閑居の遺跡あり

吉祥院 吉祥院村にあり

本尊吉祥天女○當院は舊菅家歴代の領地にして、菅相公の別業あり
し所なり○天満宮を祭る

教王護國寺 一名東寺大宮通九條の北にあり

眞言宗本山○桓武帝東寺を空海に賜ふ、これを當寺の草創とす○當

寺堂塔伽藍魏々として壯觀なり、又寶物多し

羅生門舊跡 千本通四塚にあり

六孫王社 東寺の西北にあり

祭神六孫王源經基公○社前の池を神龍池と云ふ



第六東南甲部

青蓮院門跡

三條粟田にあり

天台宗○開基傳教大師中興行玄大僧正其第二覺快法親王○當寺殿舎壯嚴なりしか客年火災にかゝりぬ

金藏寺御猿堂

青蓮院の隣

粟田天王社

御猿堂の東にあり

智恩院

青蓮院の南隣

淨土宗鎮西派總本山○當院は圓光大師一宗開發の靈所なり、徳川將軍嶮皿を開き伽藍を建立す、洛東第一の大厦なり○當院は東山の要地により風景絶佳なり

八坂神社

智恩院の南西にあり

官幣中社○祭神素戔鳴尊、八王子、稻田姫○貞觀十一年播州廣峰より遷座すと云、近年樓門、社務所等を改築す、○祇園會は例年七月十七日、廿四日の両日にして山鉾を曳き神輿の御渡あり、邦内無比の美祭り

鉾にのる人のきはひも都かな 其角

圓山公園

八坂神社の東を云ふ

近年益々規模を宏大にし、京都の公園となす、中央に垂櫻樹あり祇園の夜櫻これなり○二軒茶屋は祇園社樓門の南にあり

月はもり花は葺たり二軒茶屋 季吟

阿蘭陀か細工にゆかぬ我國の

祇園豆腐のやはらかな音 よみ人知らず

圓山安養寺

眞葛ヶ原の東山腹にあり

時宗○開基傳教大師、中興慈續僧正、○圓山は風景絶佳にして正阿彌、也阿彌、左阿彌等の席借しあり

長樂寺 全所にあり

時宗○開基傳教大師○山内に吉水鏡泉あり

東大谷 長樂寺の南山下にあり

大谷派本願寺廟所○承應二年徳川將軍此地を賜ふ依て建立す

双林寺 東大谷の南隣

天台宗○開基傳教大師○寺内西行の塔、及頓阿の塔あり

高臺寺 双林寺の南にあり

禪宗○開基弓箴和尚、中興三江和尚○當寺は豊公北政所の菩提所なり

○境内萩の名所なり○後山に招魂社并に殉難義士の墓あり

小萩ちれますはの小貝こさかつさ はせを

靈鷲山正法寺 高臺寺の南隣靈山にあり

時宗○開基傳教大師、中興國阿上人

八坂塔 下河原高臺寺門前東へ入所

庚申堂 八坂堂の前にあり

經書堂 來光院と號す、産寧阪の上にあり

子安觀音 清水寺門前にあり

清水寺 松原通の東山腹にあり

法相、真言両宗兼學○寶龜九年大和國島寺の僧延鎮、化人に遇ひ觀音安置の事を依頼せらる、延暦十七年將軍田村麿延鎮の素願を感じ、居宅を寄附して觀音寺を建つ、大同年中紫震殿を田村麿に賜ひ、移し用ひて伽藍となし清水寺と號す○音羽瀧は奥の院の下にあり○堂寺

本堂は世に清水の舞臺と唱へ、建築の模様奇絶なり、又眺望最も佳なり
○西國巡禮第十六番靈場(四月一日より三日間法會)

今日こすは音羽のさくらいかにそと

みる人ことに問はましものを 俊 忠

清閑寺 清水の東山越にて至る

歌中山 清閑寺の北音羽山の間を云

西大谷 五條坂の上にある

本派本願寺廟所○慶長年中創始○門前に蓮池あり眼鏡橋を架す

小松谷正林寺 馬町の東にある

浄土宗○開基惠空上人○當所は九條兼實公并に圓光大師の舊跡なり

大佛殿方廣寺 大和大路通の南にある

天台宗○天正十四年豊臣秀吉の建立○有名なる巨鐘は寺内にあり

(四月一日より七月廿一日迄百廿日間法會 内拜)

耳塚 豊國神社の前にあり

豊公征韓の役に韓人の耳を斬り、茲に埋むとの説あり

豊國神社 方廣寺の南にある

別格官幣社○祭神關白豊臣秀吉公(六月廿日奉告祭)

妙法院門跡 方廣寺の東

天台宗○開基惠亮僧正○豊公の遺物種々あり(四月一日より七月廿一日迄百廿日間殿舎并觀寶物展覽)

帝國京都博物館 妙法院の西南にある

蓮華王院 三十三間堂と云、豊國神社の南にある

後白河法皇の御願として、平忠盛奉行とあり千体御堂を建立す、堂の間口六十六間而して二間毎に柱を建つるを以て三十三間堂と唱ふ

又棟木の由來は世人の普く知る所なり○本堂は通矢射場として昔時よりその名高し

養源院 三十三間堂の前にあり

智積院 養源院の東にあり

新熊野社 智積院の南三丁にあり

劔の宮 新熊野より泉涌寺へ至る路傍にあり

泉涌寺 新熊野の東南三町餘にあり

天台眞言律禪四宗兼學○當時初め弘法大師の開く所にして、後ち建保六年泉涌寺と改號す○四條帝始めて官寺となす、歴代の御陵地なり

東福寺 伏見街道一の橋の下にあり

禪宗五山第四○開基聖一國師願主九條道家公○本寺佛殿及方丈は

客年火災に係れり○當寺涅槃像は應永十五年六月兆殿司の揮毫にして、本朝無比の名畫なり○通天橋は本堂の西にあり、橋下の溪を洗玉淵と名く、此邊楓樹多く秋景清逸、世に通天の紅葉と稱するこれなり

稻荷神社 東寺門前より南凡十町にあり

官幣大社○祭神倉稻魂命素戔鳴尊、大市比賣神、田中社、四大神○神輿五基あり、美麗精好○後山を稻荷山と稱す、採葦の勝地たり

稻荷山杉虫のもみちきて見れば

た、青地なるにしきなりけり 周防内侍

石峰寺 稻荷山の南深草にあり

禪宗○開基千泉和尚

寶塔寺 石峰寺の南にあり

日蓮宗○題目の塔石あり、下に日蓮、日朗の遺骨を埋む、之を寶塔と稱す
瑞光寺 寶塔寺の南にあり

日蓮宗○明暦元年元正上人の創立

藤森神社 稻荷社前より伏見街道を下ること凡十町

府社○祭神舍人親王、早良親王、伊豫親王○旗塚は本殿の東にあり、神功皇后三韓征討の後旗及兵器を埋め玉ひし所なりと云、蒙古塚は蒙古大將の首、及兵器を埋めたり云々

佛國寺 大龜谷より六地藏へ至る道にあり

禪宗○開基高泉和尚

六地藏 佛國寺の南にあり

月橋寺 豊後橋北詰にあり

禪宗○後山を月見岡、又宇治見と云、豊公看月の舊地たり、依て當寺を

指月山と號す

觀月橋 一名豊後橋、煙火の名所

巨椋湖 豊後橋の南にあり、觀蓮の名所

伏見城舊趾 桃山にあり

近來金城閣を設置す眺望絶佳なり、桃樹梅樹多し

御香宮 桃山の麓にあり

祭神神功皇后○拜殿は舊桃山城の遺物なり(四月十七日五月五日兩日祭典及奉能、樂四月十日より廿日迄十日間展觀)

墨染寺 伏見墨染にあり

欣淨寺 全所

淨土宗○此所古へ深草少將の第宅なりと云

北向不動院 竹田村にあり

安樂壽院 全所

第七東南乙部

栗田明神社 三條通栗田口にあり

東岩藏眞正院 三條蹴上神明宮の左山にあり

安祥寺 山科にあり

諸羽神社 全所

法嚴寺 音羽山上にあり

眞言宗○開基延鎮法師

元慶寺 北花山村にあり

山科本願寺舊地 全所の東南にあり

東西両本願寺の別院あり○蓮如上人、實如上人の塚あり

勸修寺門跡 勸修寺村にあり

華宏、眞言二宗兼學○開基範俊僧正

大石良雄居宅跡 勸修寺の西北七町計敷の中にあり

隨心院門跡 勸修寺の東小野村にあり

眞言宗○開基仁海僧正

醍醐寺 醍醐村にあり

眞言宗○開基理源大師○延喜四年の建立にして醍醐朱雀村上三帝

の勅願所なり○花見山は秀吉公花宴の舊蹟○如意輪堂に安置せる

如意輪観音は理源大師の作にして、西國巡禮第十一番の靈場なり

南禪院 如意輪堂の東にあり

一言院 醍醐の南村庄の口にあり

法界寺 日野村にあり

眞言宗○建立本願は日野資業卿○乳に乏き者本尊に祈願するに靈

驗ありと云

黄檗山萬福寺 五箇庄の南にあり

禪宗○開基隱元和尚、師は明の福州の人○當寺殿堂伽藍尤も壯嚴にして、聯額を掲ぐる實に夥し、又書畫の寶物數多あり(四月一日より十五日迄十五日間什寶展覧)

三室戸寺 三室戸村にあり

天台宗○開基智燈大師○中興隆明和尚○當寺は光仁帝御本願にして西國巡禮十番の靈場なり

宇治山 三室戸山の南にあり、喜撰法師舊住の所

喜撰嶽 三室戸より一里計東南

宇治 往昔梅尾明惠上人初めて茶を唐土より持來り栽培す、以來製茶の名所なり

木かくれて茶つみもさくやほど、さす は せ を

宇治橋 宇治川に架す

宇治川 源を近江琵琶湖に發し石山の麓を過き宇治に來り、遂に淀

川に合す、上流に岩石多く鹿飛しかひと名くる處あり、當所河堤は觀螢の名所なり

通圓茶店 橋の東詰にあり

橋 寺 全所の東にあり

離宮八幡宮 橋寺の南三町にあり

祭神應神天皇仁德天皇皇子荒道稚節子

惠心院 全所の南にあり

真言宗○開基惠心僧都

興聖寺 全所の南にあり

曹洞宗○開基道元和尚○當山門前に櫻樹あり、寺内杜鵑花多し

平等院 橋の南にあり

天台宗○此地始め融公の別業
 なり、後陽成帝行宮を建て給ひ
 宇治院と號す、永承七年宇治關
 白賴道改めて寺となす○佛殿
 鳳凰堂は本邦美術の建築なり
 亞米利加萬國博覽會へ撰造建
 築せし殿堂なり○釣殿は鳳凰
 堂の西にあり、共に古代の建物
 たり○扇芝は源三位賴政自害
 の處なり、埋れ木の花や扇の芝
 の露と云ふ石碑あり



縣社 平等院後門の傍にあり

例祭五月五日夜にして其名世に高し

槇島 宇治橋の西北十町計にあり、觀月の名所

金色院 平等院より十八町南白川村にあり

眞言院 岩本村にあり

猿丸太夫社 全太夫の舊跡

椎尾山光明寺 久世郡觀音堂村にあり

冑明神社 全所にあり

玉井寺 水無村にあり

井堤玉河 井堤の東二里計り和東より流れて玉河を過ぎ木津河に

入る、この河は名所六ツの玉河の一ツなり

高倉宮靈廟 玉河の南鳥井村の東にあり

祭神後白河帝皇子以仁王

蟹満寺 綺田村にあり

眞言宗○當寺の由來は昔し少女蟹を救ふ、後少女の父蛇に少女を與へんと約せしとありしに、蛇少女に迫り來りし時數千の蟹集り來り蛇を殺して少女の恩に報へり、父母大に悦び寺を營み蟹満寺と號す

神童寺 綺田の東山中にあり

妙勝禪寺 綴喜郡薪村にあり

禪宗○開基大應國師○一休塔は方丈の庭にあり全和尚の遺骸を埋む、又全和尚生身の影像あり



○ 攝津灘

第一灘の景況

灘の京都を相去ること四十哩計、此地一帯酒造を以て名あり、現に清酒の本場と唱ふるもの此地に外ならず、此小案内記を見るへき旅客ハ、此地に關係ある事無論なるへく、京見物かたへく、是非一遊せらるへきことなるを以て、茲にその景況概略を掲ぐ

兵庫縣下攝津國灘は、灘目灘の側と唱へ全國兵庫郡、菟原郡に跨り、今津西宮より神戸に至る沿海の酒造地方を總稱したる名なり、これを區別して五郷となす、即ち西郷舞台、神田、八幡、味泥、新在家、大石等の諸村、中郷東明、石屋、住吉、御影等の諸村、東郷魚崎、青木、深及、西郷魚崎、青木、深及、今津郷これなり、從來は西宮今津は灘の内にあらざりしも、明治十九年同業者相謀りて、以上の如く五郷を灘と定め、灘酒造業組合事務所を設立せり

灘の地勢たる西は八部郡神戸に接し、東は武庫郡今津村を限り、南方一帯茅渚海に面して、遙に泉州と相對し、北は近く六甲摩耶等の連山を負て有馬郡に界す、海岸より山麓迄の間は、二十町乃至三十町にして、神戸に達する鐵道線路其中央東西を貫通す、西ノ宮及佳吉に停車場あり、氣候は四時雨少く、盛夏は暑氣頗る酷しけれども風あり、冬は嚴寒と雖も氷点を降ること極めて稀なり、酒造藏村々の全部を占め、之に附屬する水車業、樽業等をなす者頗る多し

灘酒造の沿革を尋ねるに、文録、慶長の頃に起源せりと古老の口碑に傳ふれども、其確かなること得て考証すへからず、寛文六年初めて八百四十石を醸し、其後延寶、元祿、正徳を經安永七年に至り、漸く繁盛を致して四千五百五十石を醸せり、文化十二年に至り石數大に増加して六萬四千九百四十餘石を醸出す、但安永より文化年度は、其醸造したる酒を八

しく貯へ、之を三年酒或は五年酒と稱へ、特に之を賞味せりと云ふ、其後文政三年は七萬八千貳百四十餘石、全十二年は大に増加して十萬一千六百二十四石を醸出せり、天保年度より其額年々減少して、嘉永三年に至て僅かに三萬二千二百二十餘石を醸造す、惟ふに當時尤も衰微の極点に達したる者の如し、元治元年に至て其額大に増加して九萬九千四百八十餘石を醸し、慶應二年は之に反して其額僅かに三萬二千三百九十餘石に減少せり、又明治元年より全十二年に至る醸造高は、毎年九萬乃至二十萬石内外なりし、十三年より十九年に至る間又増加して、三十萬石に達せることあり最近數年間の醸造高左の如し

廿二年度	貳八七、〇七八、九三壹合
廿三年度	貳八八、貳一四、三貳五
廿四年度	貳九二、三六五、四四貳

廿五年度	三貳八,四五一,三四七
廿六年度	三一四,九九五,四九八

灘にて醸造したる清酒は、古來より其過半を東京へ輸出し、殘額は地賣及各地方へ輸出す、東京へ輸出するには各酒銘を菰に書付け、三斗五升乃至四斗入の樽へ詰め、多くは神戸港より汽船にて横濱港へ運輸す、又鐵道にて輸送するも少なからず



第二灘酒醸造法概略

灘酒は醇良を以て名を全國に轟かす、而して其醸造法には家々少しの流義の差はあれども、敢て大なる變りはなし、其醇酒を得る以所の者決して偶然にあらずして、醸造原料の精撰、醸造法の注意に外ならず、今此醸造法を縷述するに當りて、弊家諫鼓烏印の醸造概略を掲ぐ、冀くは適任の案内者に免し、幸に一讀を給はり爾後益々愛顧を垂れ玉はんことを

諫鼓烏印醸造法摘要

醸造を別つて原料米洗ひ米蒸し、製麴、醗取仕込、酒揚げ及澄清、火入及貯藏、積出しとなす、今此順序に従ひ次々に之を述へん

原料 原料に用ゆる米は醸造家の尤も精撰すべき者にして、何れの米如何なる質にても使用する事を得ず、攝津にては島上、島下、河郡、播

磨にては加東、加西、明石郡を用ゆ然してこの内にて尤も良種を撰
 擇せざるへからず、攝津の二郡にては粟生、福井、佐保安威等を用ゆ、播
 磨にては秋津、久米、鳥居、三草、明石、金谷等を用ゆ、又酏米には尤も最良
 米を撰ふ、此等酒造米を産する地質は、皆山麓或は山腹の地にして褐
 色を帯ひたる眞地より成る、肥料は草、木葉等をねさしたる者に少量
 の魚肥料を混す、而して石灰等を肥料となすものは不良なりと云ふ
 これらの玄米は何れも白色を帯ひたる大粒にして光澤あり、此を天
 井掛けの水車によりて精米となす、然して搗き揚げて極精米となす
 には、壹石の玄米を以て凡七斗五升内外を得、實に其量を減殺するこ
 と貳割五分なり、斯の如くにして得たる精米は、純白綿の如く粒々皆
 光澤を生し、少しも糠氣を混することなし、若し此原料の米を精撰す
 ることなければ、酒の出来柄劣等にして、香氣悪しく風味清麗ならず

これ製酒の吟造は原料の米を吟味するに外ならずと謂つへし
 次きに醸造水とす、灘邊の水は不良と云ふにはあらざれども、西宮水
 を以て醸造するが如くならず、且又前述の如く吟造をなすには、是非
 とも宮水を使用せされは不結果を生ず、西宮水を學者の分折報告に
 曰く、醱酵有効成分に富むと謂へり、然れども灘の酒造家、昔時は皆地
 水を以て醸造し來りしが、今の櫻正宗印醸造家山邑太左衛門氏の祖
 先、實驗の上宮水を引用することを始めてより、皆これに倣へりと謂
 ひ傳ふ、又昔時の醸造は今の如く吟造ならずと謂へり
 さて此醸造水は西宮町の東南部一町四面程の間に湧出する井水に
 して、其數貳十個所計あり、之を一斗八升計容るへき樽に詰めて、海上
 を船にて運搬す、或人の説に西宮より數里の間海上を運搬する爲、其
 水動揺して一層酒造に適するに至ると云ふ

米洗ひ米蒸し

精白米を洗ふこと尤も注意して叮嚀ならざるべからず、これ米を一層精白にするにありて米粒の碎けざる様にすべし。あり、米洗には七五三と唱へ、壹斗五升程の米を桶へ入れ、最初水流しをなし、次に足にて七十回米を踏み廻す、さて又水を流して五十回踏み、又水を流して三十回踏み又水流しをなす、此洗ひ得たる米は米潰桶へ入れ清水に浸す、米水分を含み軟かくなれば、蒸釜の上に装置したる甑へ入れ蒸となす、而して生米を蒸となすには五時間計を要す

製麴 蒸米を適宜の温度に放冷して之を麴室へ取入れ、次て種麴を播布し手にて採み附け置く、かくて貳十時間計を経て盛と稱し蒸米を麴蓋に盛る、之を始めとして晝仕事、終仕事等を歴て麴全く成熟するに至る、さて麴は酒の香氣、風味の出来柄に關して尤も大切の者なり、麴には若麴、老麴と二様あれども、弊家にありては若麴を好て使用

す若麴を使用したる酒は香氣良く風味美し、若麴を製するは頗る注意を要する者にて、製麴の温度及麴室の温度を低くせざるべからず。學者の説にも温度を高めて製したる麴は、有害物を含育すと謂へり。若麴は老麴の如く外見は美しからされども、麴の色褐色を帯ひす従て製酒の色も白きものを得るなり

酏取

蒸米と麴と水とを法の如く混合し、而して手酏と稱して時々手を以て攪拌すること六回計、かくて山卸と唱へ歌を謡ひながら攪を以て品料を摺り潰す、其後二三の操作を歴て酏卸桶へ移し、暖氣樽に熱湯を詰め酏の醪を攪拌すれば、數日を経過するに従ひ熱を採り次第に泡を生し酸酵をなす、酏の成熟する期は五味の兼備するにあり、さて酏にも若酏と老酏とあれども、弊家にありては好て若酏を使用したる酒は辛味強くして口中美し、若酏を製するには酏の酸酵温

度を非常に高めず、又配分けと稱し配の醱酵適度に達し成熟したるを認め、他の桶へ分け移し温度を冷すに當り、老配よりは此仕事を早くす、灘にありて灘に新工夫を發明したる人は、惣花印醸造家岸田忠左衛門氏なり、氏一度新法を以て其酒を製出せしより、氏の配揚げ風甚た流行せり

仕込

仕込は即ち清酒を醸造するの本段なり、先きに成熟したる配へ所要の蒸米麴米、又汲水を掛け加ふるを云ふ、其醸造の順序初添、仲留と三段に別つて逐次に掛け加ふ、其醸造方法左の如し

配	米	七斗	蒸米	貳斗	汲水	六斗四升
初添	米	壹石四斗五升	蒸米	五斗	汲水	壹石貳斗三升
仲	米	貳石四斗	蒸米	六斗	汲水	貳石五斗
留	米	四石四斗五升	蒸米	壹石五斗	汲水	五石八斗
			蒸米	三石四斗		

以上の如く三段に別つて留を掛けてより時日を経過するに連れ、醱酵彌々上進し十四日目に最高温度攝氏貳拾貳度に達す、爾來醱酵徐かになり廿日目に至り酒揚期に達す
さて醸造には暑掛、冷掛とあれども弊家は好て冷掛をなす、暑掛とは添に高温の蒸米を掛くる醸造法にて、冷掛とは其名の如く低温の蒸米を掛くるを云ふ、暑掛は早く酒になり冷掛は遅く酒になる、然れども冷掛は暑掛の如く醱酵温度を高く昇さるるか故に、香氣風味共に佳良なり、又從來の實驗に徴するに火持完全なり、學者の説にも醱酵温度を高めて造りたる酒は、佳良の香氣を散失し透明を缺き、衛生上有害物を含畜すと謂へり

酒揚げ及澄清

前きに述べたる如く仕込留より二十日目にして酒揚げの期に達すれば、直ちに桶より醱を汲み取り酒袋に入れ酒槽

に積む、斯の如くにして不透明の清酒は垂れ甕へ注下す、これを汲み上げて桶に取り荒濁を澄し入口桶へ移す、十日計を歴て此の清酒尤も澄明となる、仍て又滓引桶へ移して極清澄なる物を密閉して貯ふ

火入及貯藏 四月初旬に至り漆を引きたる釜へさきの清酒を入れ加熱して華氏百三拾貳度に至れば之を園桶へ取り、密閉して貯藏す清酒を貯ふる園桶は大和吉野郡川上に産する硬質の杉材にして、初二年は貯酒に木香を附すること多し、三年目より七年目迄を尤も適當の園桶とす、而してこの桶の洗滌は尤も注意すへきことにて、若し不注意なれば園酒に桶香を附帶す、弊家は特に茲に注意して、園桶を最初日光に乾かさずして洗滌し、十分酒氣を除去して後日光に乾かす、又火入凡十五日以前に一度水洗滌をなして日光に乾かし、桶香を除去する事に務む

六月中旬に至り初呑切をなし園酒を揀す、爾來十日目毎にこれを揀す、斯の如くにして盛夏を一ツ火の儘經過し冷却しをなすに至る

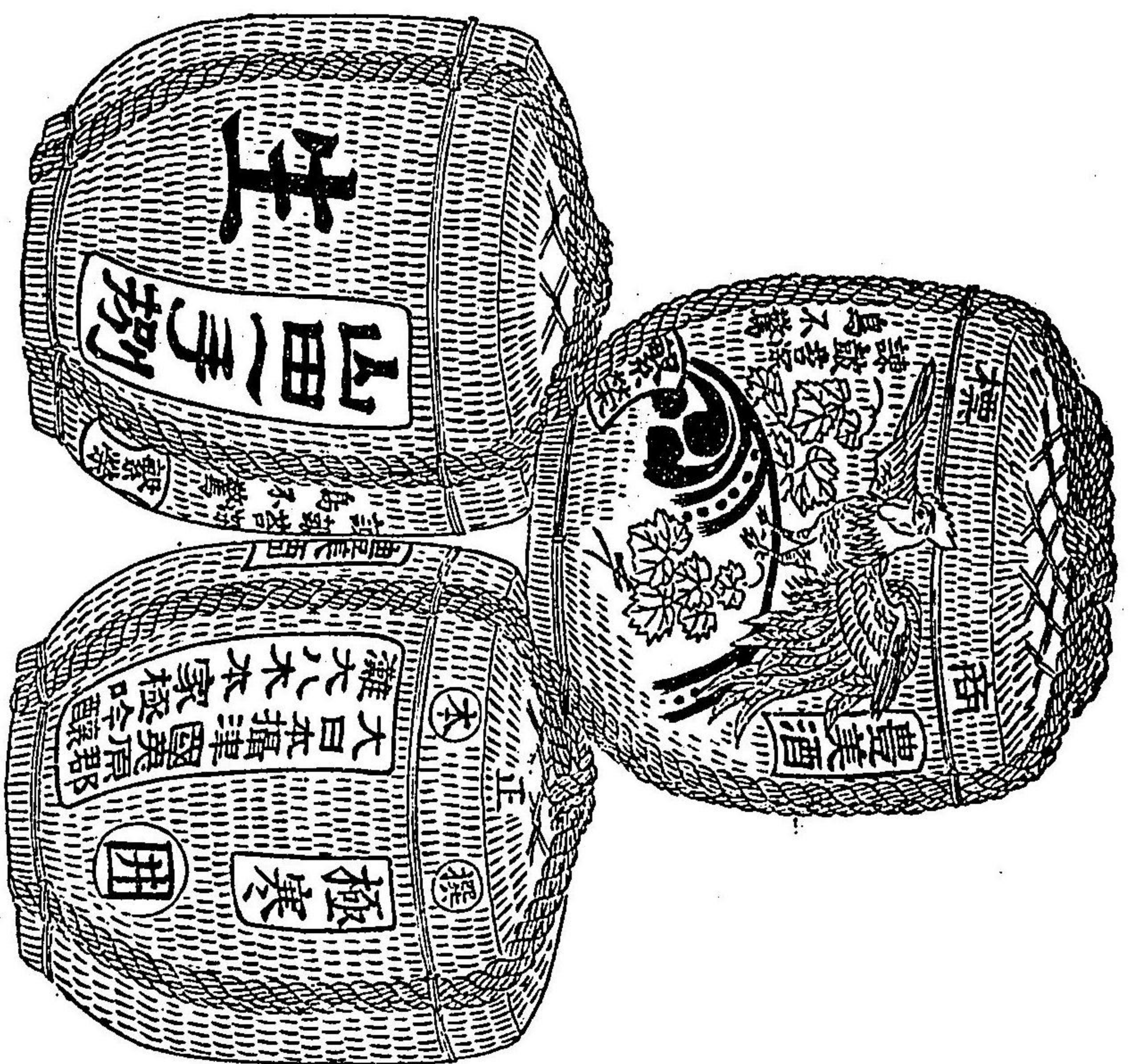
積出し 積出しをなすは猶農家の収入の如く、實に醸造中の最終期なり、而して樽物として積出すは、園桶に火入すると同時に樽に直に燗酒を詰め、適宜の時日を経過したる者なり、十月以後に積出すものは冷酒の儘樽へ詰め取りたるものなり、何れも樽の呑口へは商標を畫きたる呑張をなし、商標の菰に包み面菰を掩ひ、海路若くは陸上を諭送す

弊家釀酒は前述の如く、原料より積出し迄一々精神を凝らし、注意を重ねて製造したるものにして、恒に篤實を先とし敢て一時の利を貪るか如き舉動は誓てなさず、釀酒中東京南新川山田五郎助一手捌になる諫鼓島は、最上精撰品と最上品の二ツに分つて輸出す、其商標及

荷造等の如きは早く既に讀者の認識せらるゝ處たるへきも、茲に之を掲ぐ希くは萬倍の愛顧を垂れ給はんことを

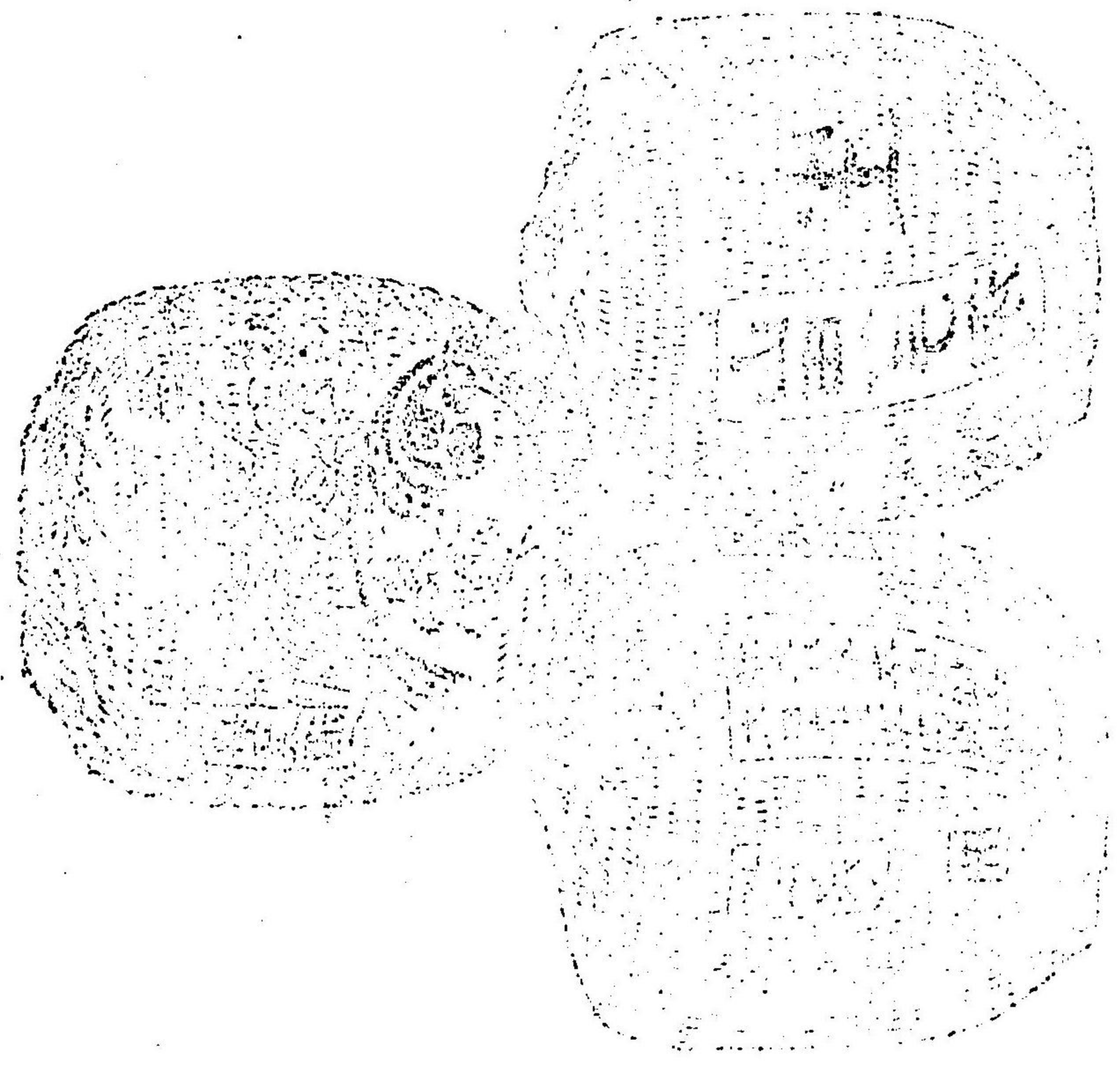


最上猪撰諫鼓鳥印商標



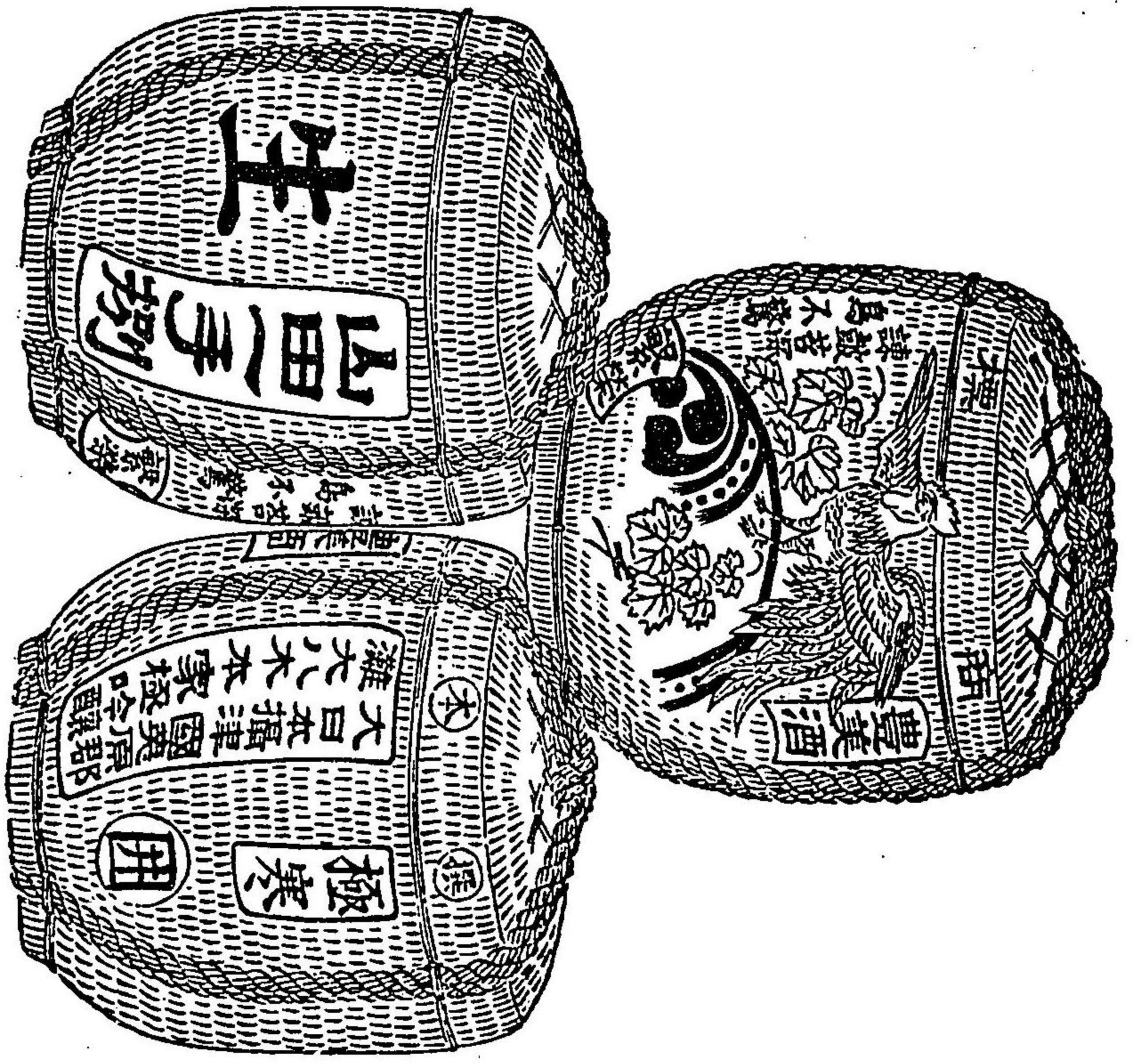
附言 樽圍には圓に換ふるにがこゝろ
を用ひ未の生かし

新嘉坡山實里街門牌第...



此酒は、本國産の純粋な酒類で、
品質の優れ、味は芳醇で、
健康に有益な酒類である。

最上措撰 謙敏鳥印商標



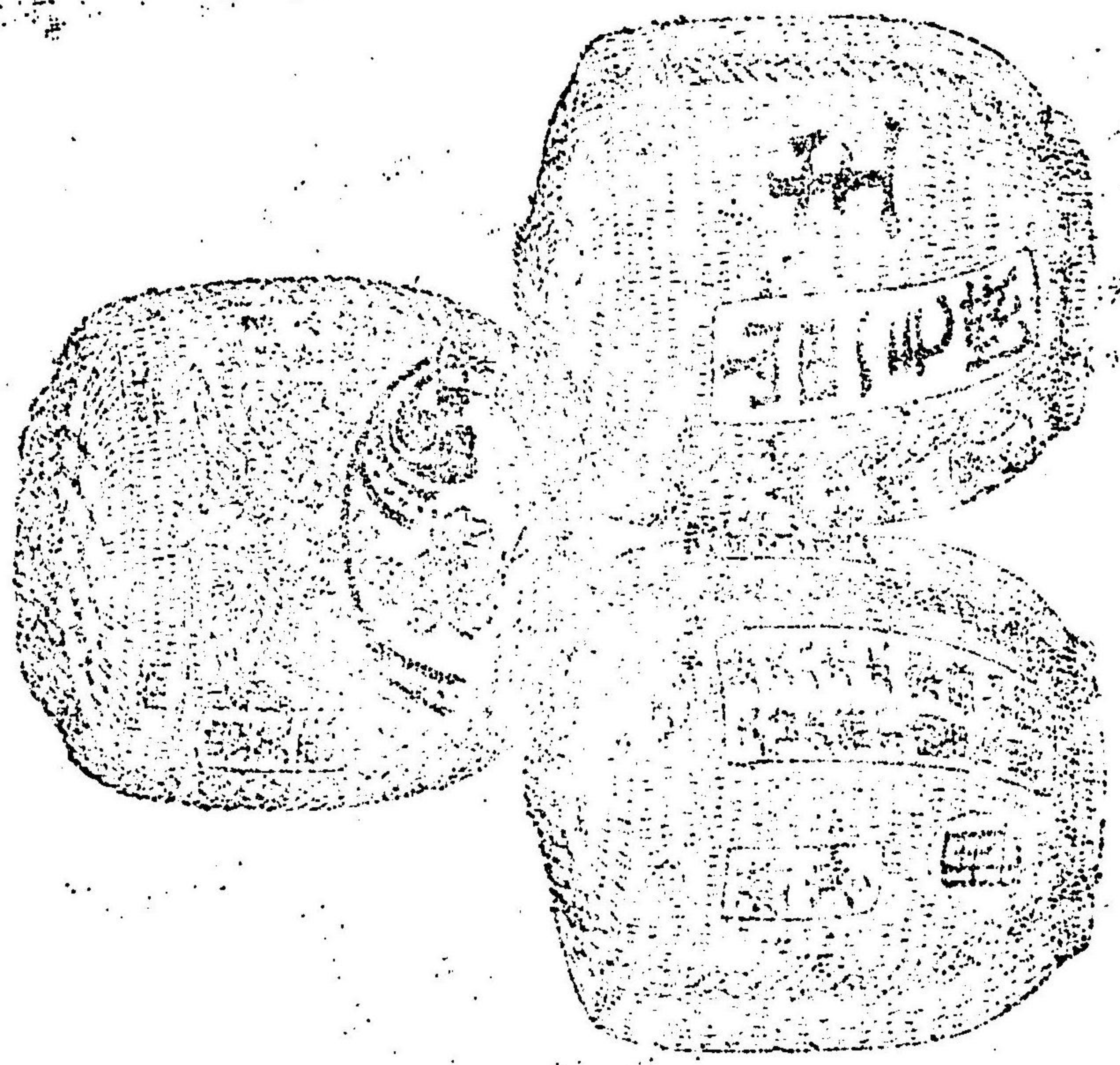
附言 樽圖には 圓に換ふるにかゝる
と用ひ朱の生かし

掘川二條	寺町二條	三條大橋	木屋町	御府	錢所	西大	東洞院	大宮四條	四條大橋	錢大橋	魚棚	地	東本願寺	金貳錢五厘		
上鳥羽	知恩寺	清水橋	伏水橋	新屋敷	千本立賣	錢敷	大宮五條	烏丸松原	五條大橋	五條	古御旅	大宮七條	魚棚	地	西本願寺	金四錢
榎原	伏水觀月	下鳥羽	西三條	銀閣寺	大德寺	小松原	御心室	妙心寺	金閣寺	向日町	疏水	吉田	北野	百萬遍	真如堂	金拾貳錢
淀小橋	宇治橋	上嵯峨	上嵯峨	嵐加茂	八坂	河原町	柳馬場	大馬場	堀川三條	堀川三條	東松	大宮	堀川	島原	寺町	金五錢

○雜件

○自七條停車場各場所迄人力車賃金表

此處有各種...



此處有各種...

(百)

市中引廻り半日四時間金貳拾五錢市中引廻り一日八時間金四拾五錢、夜陰二割増、風雨雪道路泥濘の節は四割増し、二人乗は一人乗半額増、特別急行は前各項の外に乗客と相對を以て増額するものとす、往復之節は前各項に増額するものとす

○馬車 (ステーションが府廳迄烏丸線)

- 五條迄 一錢 四條迄 二錢
- 押小路迄 三錢 府廳迄 四錢
- 七條奈良線 (乗車賃金三十一錢)
- 七條發 前七時 奈良着 前十一時卅分
- 後一時 後五時卅分

○第四回勸業博覽會開期中鐵道及汽船會社割引

- 鐵道會社 日本鐵道 兩毛鐵道
- 官設鐵道

(一百)

- 二割引 甲武鐵道 總武鐵道 阪界鐵道
- 九大阪鐵道 山陽鐵道 播但鐵道
- 三割引 炭礦鐵道 關西鐵道 參宮鐵道
- 汽船會社
- 五割引 郵船會社 春陽丸 第二能登丸
- 二割引 關西同盟汽船 阿波共同汽船 丹州汽船
- 加能汽船

○京都電機鐵道乘車賃金表

- 一區貳錢 半區一錢
- 貳十分間 每發車
- 盤小路五條間 壹區 上珠敷屋町通間ノ町角 半區
- 五條二條間 同 木屋町通錦小路角 同
- 二條南禪寺間 同 二條橋詰 同
- 二條堀川間 同 丸太町通間ノ町角 同

摺小路稻荷間	壹區	九條村	半區
稻荷棒鼻間	同	竹田村	同
棒鼻油掛間	同	くげ村	同

○明治廿八年二月七日改正京都宿屋業組合規約摘要

第四十條 總て宿泊人に對しては誠實懇篤を旨とし叮嚀に取扱ふは勿論家屋の内外器具臥器等を清潔にし不良の飲食物等を供すへからず

第四十一條 宿泊人の需めに依り諸物品の買入を托せらるゝときは假令ひ些少の物品たりとも正實なる商店にて買取又は買取の紹介をなし口錢又は手数料等を請取る可からず

第四十三條 何等の名義を以てするも出迎人を出すべからず但旅客の照會にして其證左あるときは此限にあらず

旅宿の中飯は各等宿泊料の半額以下とす	宿泊料		梅	
	竹	松	下宿料	一ヶ月前
四三二一 等 金 三 拾	四三二一 等 金 拾 五	四三二一 等 金 拾 五	四三二一 等 金 七 拾	四三二一 等 金 壹 拾
錢 拾 錢	錢 拾 錢	錢 拾 錢	錢 五 錢	錢 五 圓
五 等 金 四	四 等 金 五	三 等 金 六	二 等 金 七	一 等 金 九
圓	圓	圓	圓	圓

第四十七條 組會員中旅宿業を左の三種に區別し宿泊料下宿料等を定め定價以下に降ることを得と雖も定價以上に登ることを得ず但客の求めに依り特別の待遇をなすものは其求めに應じたる即時(外國人を除くの外)其客の住所氏名を記載したる書面を以て事務所に報告する者とす

○物業博覽會各府縣出張所

- 京都府 仁王門新高倉東入妙傳寺内 (委員 杉浦耕成、延原均一)
- 東京府 仁王門通福本町清光寺 (委員 水野致堯、竹中卓郎)
- 大阪府 仁王門通北門前町寂光寺 (委員 小林謙二)
- 石川縣 三條橋東四町目常安寺 (委員 守山陶吉)
- 北海道廳 三條橋東櫓王法輪寺 (委員 國松英太郎)
- 兵庫縣 仁王門頂妙寺塔中信如院 (委員 茂呂信義)
- 新潟縣 南禪寺町二十八番地 (委員 木村武吉郎)
- 山梨縣 仁王門頂妙寺内春性院 (委員 小川保)
- 福島縣 川東二條教安寺 (委員 杉田進)
- 德島縣 西寺町三福寺内 (委員 石河香二郎)
- 香川縣 三條橋東二町目大藏寺 (委員 伊藤知機)

- 宮崎縣 南禪寺町五十六番地 (委員 野崎榮二郎)
- 鹿児島縣 岡崎町福井久方 (委員 諏訪耕夫)
- 埼玉縣 三條新聞之町 (委員 藤田幸年)
- 静岡縣 二條川東西寺町大恩寺 (委員 陣野信三)
- 宮城縣 川端丸太町南終屋方 (委員 武澤愛二郎)
- 和歌山縣 仁王門鴨川東新丸太町 (委員 島崎靜)
- 愛媛縣 西寺町仁王門北入佛光寺 (委員 齋藤基良)
- 高知縣 仁王門頂妙寺方丈 (委員 濱田嚴彦)
- 福岡縣 新門前梅本町一番戶 (田品人總代戶部厚敬)
- 熊本縣 西寺町二條南人見性寺 (委員 古賀只平)
- 福岡縣 川端夷川南中田庄太郎方 (委員 井端熊喜、板垣正軌)
- 佐賀縣 二條川東正往寺町西昌寺十番戶 (委員 古賀只平)
- 佐賀縣 二條川東正往寺町西昌寺十番戶 (委員 水上清基)

秋田縣	二條川東定法寺町十五番戶	(委員兒玉史郎)
長野縣	西寺町仁王門南正念寺	(委員西原格之助)
山形縣	仁王門頂妙寺內大乘院	(委員木野源六)
群馬縣	押小路富小路東入	(委員石川泰三)
神奈川縣	二條川東北門前町	(委員瀬戸高明、吉田清慎)
千葉縣	三條橋東三丁目正榮寺	(委員福原衛)
三重縣	仁王門頂妙寺塔中本立院	(委員千葉胤臣、山田寅之助)
滋賀縣	黒谷塔中西住院	(委員村田正哉、高橋虎太郎)
青森縣	仁王門北門前町二番戶	(委員西山廣)
山口縣	二條川東本正寺	(委員荒瀬潮亮)
沖繩縣	新築屋町三條北超勝寺	(委員竹津友)
茨城縣	川端三條北法林寺	(委員池田厚介)

長崎縣	白川橋東三丁目戎町	(委員山口豐靜)
大分縣	仲町丸太町南入	(委員堀潜藏)
福井縣	鴨東三町目金臺寺	(委員菊池孝、關雄次)
岩手縣	新高倉二條南西行寺	(委員梅田局司)
富山縣	仁王門西寺町常念寺	(委員堀宇平、高木庄八郎)

此外出張所の設けなきは島根、鳥取、廣島、岡山の四縣となれり



○京都市重要商工人名 但拔萃

西陣織物製造

紋 織

三條東洞院東入	川島甚兵衛	征屋町大宮西入	橋井幸七
堀川寺ノ内上ル五丁目	伊達虎一	今出川千本東入	人見勘助
眞倉上立賣上ル	谷新助	大宮通五辻上ル西入	稲田卯八
大宮通寺ノ内上ル	久江長兵衛	小川寺ノ内下ル	江田清七
智恵光院寺ノ内下ル	山田泰藏	寺ノ内千本東入	家島吉太郎
小川寺ノ内下ル	福田忠二郎	全	吉村伊之助
堀川寺ノ内上ル	佐々木清七	關東物商	駒井定二郎
堀川今出川上ル	喜多川平八	六角通高倉西入	市田理八
生紋羽二重	谷川庄八	柳馬場三條上ル	外村與左衛門
元誓願寺大宮西入	京羽商會	東洞院御池上ル	内貴清兵衛
衣棚二條下ル		烏丸六角上ル	山田定七

烏丸四條上ル	縮 緬 商	下村忠兵衛	不明五條角	鹿ノ子商	田中宇三郎
室町通姉小路角		稻垣藤兵衛	鉄屋町佛光寺上ル		一井太七
新町通六角上ル		吉田利助	東洞院六角下ル		河本庄兵衛
室町通御池南入		野橋作兵衛	柳馬場五條上ル		勝田甚吉
御池通東洞院西入	生糸商	山田長左衛門	松原富小路東入		笠永榮二郎
富小路姉小路角		井山喜八	烏丸蛸薬師上ル	吳服太物商	加納作之助
堺町三條上ル		外村卯兵衛	烏丸通松原上ル		飯田新七
中筋大宮西入	襟地商	岡本治助	松原烏丸東入		川端又右衛門
五辻大宮西入		竹上藤兵衛	四條富小路角		直木榮助
御池東洞院西入		山田長左衛門	今出川堀川西入		山下商店
四條御旅町		山崎善助	松原鉄屋町西入	吳服染悉皆	下村庄太郎
全		日下部彦兵衛	鉄屋町御池下ル		竹内淨玄
東洞院錦小路南入		神谷重右衛門	綾小路西院西入		梅原長兵衛

三條烏丸角	遠藤彌三郎	寺町錦小路下ル	染器商	稻垣孫兵衛
柳馬場三條下ル	島 甚右衛門	寺町綾小路角		西村彦兵衛
染物業		高辻柳馬場西入		三上治三郎
小川中立賣下ル	三越得右衛門	全		三上幸三郎
新町二條上ル	岩井惣二郎	一開張		
油小路通綾小路下ル	岸田平助	出水油小路西入		飛來一開
油小路通錦小路下ル	永井新之助	寺町綾小路下ル		佐々木平二郎
西洞院四條下ル	永井定七	寺町五條上ル		玉昇堂森田
友仙染		粟田清水燒陶器師		
醒ヶ井綾小路下ル	原田徳太郎	五條橋東三町目		眞清水藏 六
油小路通三條上ル	東染工場	祇園町南側		伊東陶山
油小路綾小路下ル	山下新七	白河橋三條下ル二町目		東城吉彦
友仙商		五條大橋東五町目		高橋道八
三條通衣脚角	西村治平	全		帶山與平
三條通烏丸西入	西村總右衛門	五條橋東五町目		清水六兵衛
油小路四條上ル	野口安兵衛			

下河原鷺尾町	永樂善五郎	寺町三條下ル		加藤甚兵衛
三條白河橋東三町目	金光山宗兵衛	五條堺町東入		湯淺七左衛門
五條橋東五町目	清風與平	三條通寺町東入		福井勝秀
七寶燒		五條富小路西入		谷川幸助
三條白河橋	並河靖之	六角通高倉西入		富田文二郎
全	佐野豊三郎	松原烏丸西入		淺野長兵衛
金銀銅器商		四條躰屋町東入		辻延二郎
富小路二條上ル	秦 藏 六	寺町二條下ル		山中源兵衛
富小路四條下ル	龍 文 堂	三條通寺町東入		明田榮二郎
寺町通六角下ル	金谷五郎三郎	中道具商		
富小路通五條上ル	吉田安兵衛	古門前通切通		林 新 助
烏丸五條上ル	吉川孫四郎	西洞院六角ノ角		中島半兵衛
油小路七條上ル	中野喜兵衛	寺町御池下ル		福田淺二郎
寺町四條下ル	紹美榮助	萬壽寺柳馬場		島津商店
打刃物商				
堀川通六角上ル	岡野安重			

御幸町三條上ル	岩田秋竹堂	綾小路室町角	博成堂
狹屋町六角下ル	石田竹影堂	府廳前西入	中西活版所
萬壽寺烏丸東入	高橋梨花堂	烏丸三條上ル	點林堂
寺町姉小路角	熊谷鳩居堂	三條通東洞院東入	商報會社
堺町三條下ル	島川清雅堂	寺町通四條上ル	田中治兵衛
筆墨硯商	勝田陸之丞	東洞院三條上ル	村上勘兵衛
室町下立賣下ル	長田重慶	三條高倉東入	出雲寺文二郎
衣棚下立賣下ル	古梅園	御幸町姉小路北入	藤井茂兵衛
寺町二條下ル	靜好堂	七條佛具屋町	佛具商
六角狹屋町西入	和洋紙商	狹屋町五條上ル	竹內孫兵衛
五條東洞院西入	大森治郎兵衛	醒ヶ井花屋町上ル	田中伊之助
烏丸二條上ル	田中宗助	寺町高辻上ル	佛具打敷
三條東洞院西入	中井三郎兵衛	寺町松原上ル	全珠屋
印刷業			綿見彦二郎
			中野伊助

洋物雜貨商	今井辨三郎	四條通小橋東入	村田榮二郎
四條通寺町東入	池松幸助	三條富小路東入	家邊商會
同町	一井宗兵衛	二條寺町東入	塚本儀助
四條富小路西入	津田佐兵衛	富小路松原北入	中島伊助
四條御幸町西入	婦人小間物商	六角富小路東入	藤田又二郎
四條寺町西入	紅白粉	六角富小路西入	宮脇新兵衛
四條柳馬場東入	白粉油	富小路五條上ル	平野久五郎
御幸町三條上ル	紅白粉	五條御幸町	橋本長兵衛
五條高倉西入	小間物	柳馬場六角下ル	櫻庭長兵衛
松原高倉西入	今西與兵衛	手遊人形商	大木平藏
六角柳馬場東入	海津與兵衛	四條堺町角	三崎清二郎
時計商	山口甚八	四條富小路西入	清水勝藏
三條通河原町東入	石原支店	富小路四條下ル	守口藤七
		御幸町五條上ル	

茶商

寺町松原下ル
寺町夷川下ル
三條通新町東入
寺町四條上ル

煙草商

油小路七條上ル
五條橋東貳町目
大宮松原下ル
大宮松原角

清酒醸造業

日暮下立賣上ル
上長者町西洞院西入
古門前大和路東入
大黒町松原下ル
森下町五條上ル

池田佐七郎
渡邊利兵衛
秋山覺二郎
三木安二郎

中川彦二郎
村上治兵衛
柴田嘉一郎

鈴鹿辨三郎
堂本伍兵衛
木村源助
田中彌太郎
松井恒二郎

伏見街道七條下ル
鉄屋町綾小路下ル
堺町通二條上ル
新ノ町錦小路上ル
油小路綾小路南入

酒商

姉小路車屋町東入
烏丸三條上ル
猪熊三條下ル
三條神泉苑町西入
一條通千本西入
四條高瀬西入
東洞院御池上ル
油小路魚棚上ル
油小路通御前通下ル
新町通花屋町下ル

松本治平
大橋彌七
堀野久造
大八木嘉右衛門
大八木徳三郎

大橋彌吉
黒仲さど
大島藤七
吉川吉三郎
菊谷藤三郎
井上治兵衛
丸岡屋
安村房之助
前川吉兵衛
竹内爲二郎

烏丸四條下ル
種麴商

石崎支店

三條小橋西入

萬津屋

大宮下立賣下ル

村井幾

鉄屋町御池上ル

若岡本猶吉

大宮三條上ル

田中久右衛門

御幸町三條下ル

松谷健藏

御幸町五條上ル

太田伊三郎

三條河原町東入

日光吉兵衛

油小路三條下ル

近藤吉左衛門

御幸町御池下ル

仙鶴亭

菓子商

龜屋末廣

三條小橋

山城屋

姉小路車屋町角

龜屋良則

三條小橋詰

吉岡誠次

蛸薬師堺町角

若狹屋

三條小橋

茶屋

今出川大宮東入

鹽路軒

三條大橋東詰

鍵屋

旅宿

西村庄五郎

同町

大和屋

鉄屋町姉小路上ル

岡崎和助

三條大橋東入

北川仁兵衛

同町

澤田文二

同町

鉄屋町押小路上ル

澤田文二

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

同町

三條大橋東詰	伏見屋藤兵衛	同町	津田長兵衛
鉄屋町蛸薬師下ル	伊藤平右衛門	高倉松原下ル	青木宗五郎
西中筋御前通下ル	田中友右衛門	五條橋詰	榊屋城山吉五郎
鉄屋町蛸薬師上ル	又八	油小路北小路上ル	砂糖茂中村金藏
蛸薬師富小路西入	千切屋	東洞院三條下ル	中村庄兵衛
六角鉄屋町東入	三木半	綾小路東洞院東入	都子つね
蛸薬師烏丸東入	富田屋	三條河原町東入	堺常七
蛸薬師東洞院東入	平野屋	蛸薬師高倉西入	岡内治郎兵衛
六角堺町西入	近江屋	東洞院六角上ル	
不明門通五條上ル	龜吉	木屋町三條上ル	旅宿兼待合
富小路松原下ル	八入	木屋町九番戸	池柏
東洞院中珠数屋町	河内	同廿九番戸	玉川
富小路萬壽寺下ル	中村常次郎	同卅一番戸	大可笑
		同四番戸	樓樓樓庄亭

木屋町二條下ル	吉田樓	鉄屋町御池上ル	笹巻亭
同町	西村屋	河原町二條下ル	京都ホテル
木屋町三條上ル	梅ヶ枝	下河原	中村阿彌
祇園圓山	萬花園	圓山	也
祇園花見小路	有樂園	鶏肉店	鳥葉新
全	共榮館	四條小橋西詰	松葉亭
河原町蛸薬師下ル	八新亭	鉄屋町六角上ル	五徳庵
料理割烹店	鳥居元	新町三條下ル	菊水
下河原	中村樓	先斗町四條上ル	精肉店
全	竹村樓	新京極	竹翁亭
蛸薬師河原町東入	美濃吉屋	同	山翁亭
繩手三條下ル	木屋町三條上ル	竹屋町寺町西入	山中亭
木屋町三條上ル	南禅寺インクライン	寺町三條下ル	三島亭
南禅寺インクライン		齋司店	

松原鉄屋町西入	稻山	東中筋五條下ル	醫	外産業	奥山一十郎
祇園新地富永町	稻山	大和大路松原上ル	皮膚梅毒	武藤勇軒	
新京極	小梅亭	三ノ宮上ノ口上ル	齋藤仙也	内産科	
川端四條下ル	柳錦亭	小川御池下ル	小兒科	三宅宗淳	
細手車道	曙魚亭	馬町大和大路東入	全産科	半井澄	
新京極三條下ル	麵類店	東山病院	全産科	山田文友	
車屋町押小路	尾張屋	山田病院	全産科	木下熙	
博覽會場内	全支店	鉄屋町御池下ル	賣藥商	川杉忠七	
烏丸七條	運送業	柳馬場三條角		谷口正兵衛	
全	内國通運會社	五條鉄屋町西入		田中庄兵衛	
四條烏丸西入	菊岡合資會社	柳馬場四條上ル	寫眞師		
三條東洞院東入	通運會社				
烏丸七條	丸二廻送店				
	豆仁組				

寺町高辻	堀真澄	洛東聖護院町	岸本業壽
細手三條下ル	片岡開化堂	盧山寺千本東入	水壑磐樟
川原町三條上ル	枝陽會	富小路御池上ル	小野湖山
萬壽寺堺町東入	俳諧師	衣棚三條下ル	市村水香
圓山双林寺中	白雀園正祇	堺町姉小路下ル	林雙橋
新町二條下ル	芭蕉堂楓城	御幸町二條上ル	谷鐵心
河原町夷川上ル	鳳尾園蛾曉	御幸町三條上ル	小林卓齋
東洞院鐵道下ル	楊庵稻處	柳馬場御池下ル	江馬天江
洛東々丸太町	黃雲亭稻雄		
歌	不識庵聽秋	書家	
伏見稻荷社	人	木屋町松原上ル	遠山盧山
洛東岡崎町	近藤芳介	鉄屋町二條下ル	荻谷保敏
堺町御池下ル	細辻昌雄	六角柳馬場西入	遠藤茂平
出水小川東入	尾崎央夫	畫家	
間ノ町松原上ル	中西石陰	室町三條	今尾景年
	赤松祐以	中立賣新町東入	原在泉

東洞院四條上ル	谷口 鶴山	寺ノ内小川東入	千宗守
祇園下河原	田村 宗立	六角堂内	池ノ坊
室町一條下ル	富岡 鐵齋	押小路鉄屋町東入	西川和風齋
東洞院三條下ル	國井 應陽	間ノ町高辻上ル	中村方圓齋
柳馬場二條下ル	岸 竹堂	能樂師	
烏丸錦小路上ル	菊池 芳文	柳馬場二條上ル	片山九郎右衛門
烏丸丸太町上ル	森川 晉文	室町四條上ル	金剛金之助
新町三條上ル	望月 玉泉	新町錦小路下ル	林喜右衛門
東洞院錦小路上ル	鈴木 松年	先斗町四條上ル	高岡鶴三郎
茶道家		室町六角上ル	大西鑑一郎
釜座二條上ル	堀内 宗晋	五條佛具屋町角	淺井織之丞
堺町松原下ル	内山 宗慎	新橋繩手東入	大江信之助
西洞院御前通上ル	敷内 紹智	芝居	
西洞院竹屋町	小川 借樂	四條大橋	南園座
小川寺ノ内上ル	千宗左	花見小路	祇園座
小川寺ノ内上ル	千宗左		

都の柴折終

新京極四條上ル	阪井 井座	同 四條上ル	大虎座
新京極蛸薬師	福井 井座	同 六角	富久米座
新京極六角	夷谷 井座	同 蛸薬師	幾代亭
同	常磐 井座	同 六角	笑福亭
寄席	富江 井座	同 錦	壽生亭
新京極錦	河村 井座	同 町	琴生亭
同 町	笹の 井座	圓山	炭酸温泉
同 蛸薬師	内林 井座	新京極	櫻自由温泉
同 町	幸の 井座	萬壽寺町東入	自由温泉
同 六角	角の 井座	六角京極	百草湯
同 町	京極 井座		

明治二十八年四月廿六日印刷
明治二十八年五月三日發行

(非賣品)

京都市上京區岩上通三條上ル上八文字町第拾八番戶
攝津國菟原郡魚崎村五百三拾六番邸寄留

著 者 大 八 木 正 太 郎

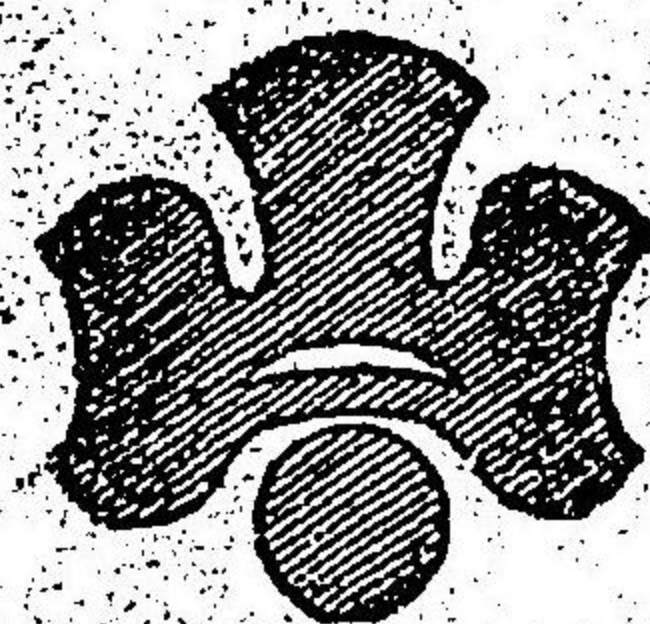
發 行 者 大 八 木 德 三 郎
京都市下京區油小路通綾小路南入風早町第廿六番戶

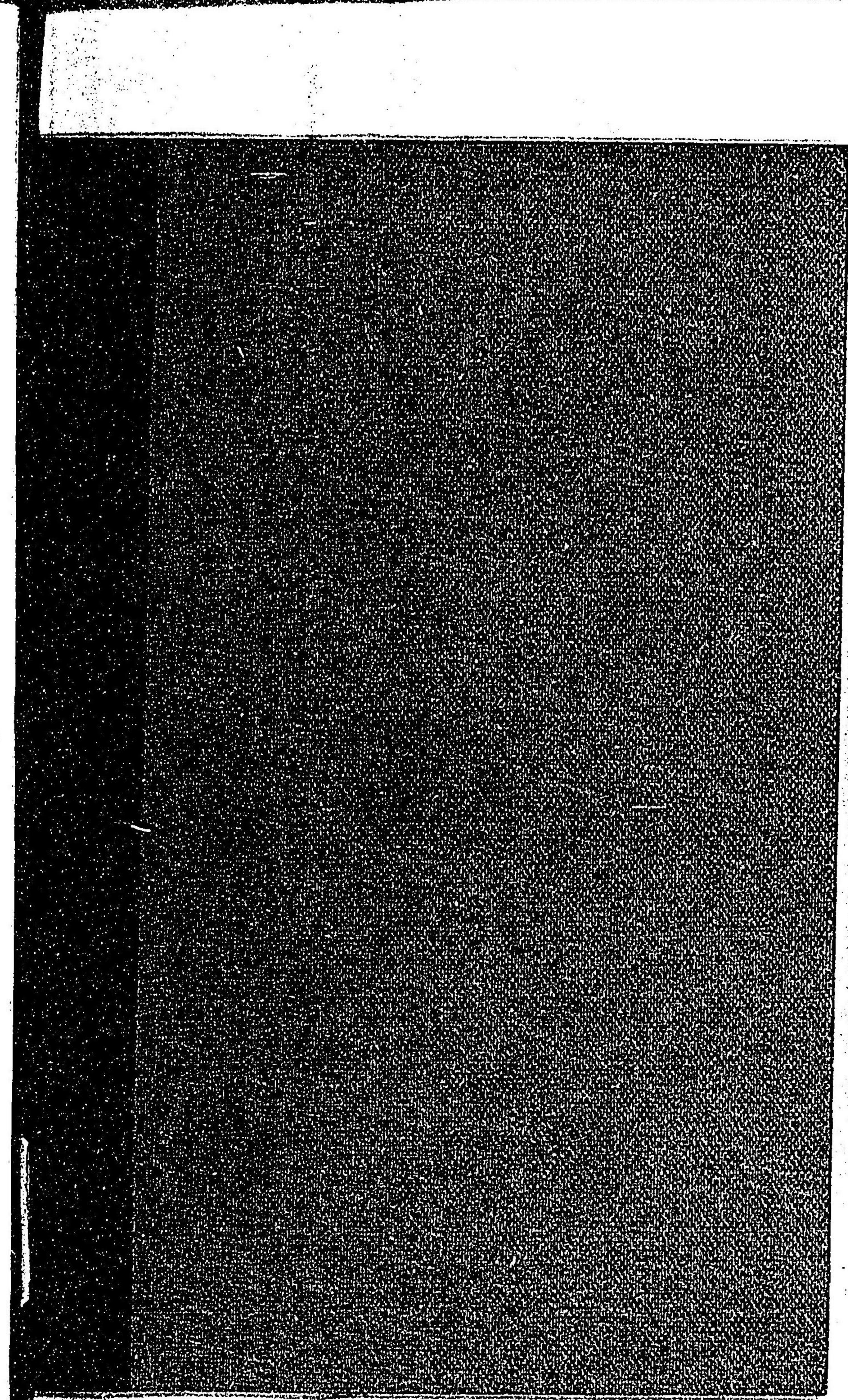
印 刷 者 山 鹿 福 三 郎
京都市上京區烏丸通三條北入塲之町第拾三番戶

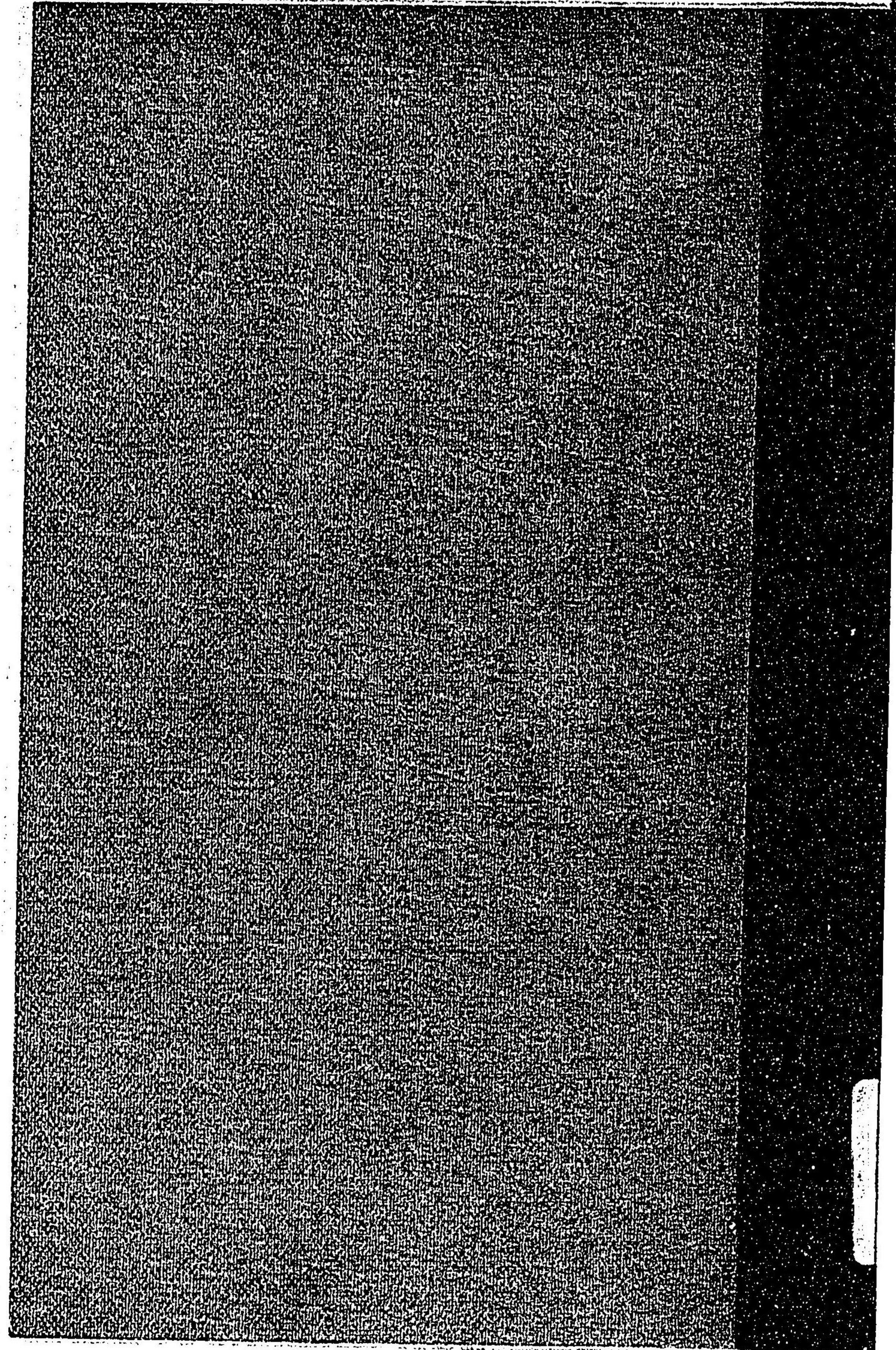
印 刷 所 点 林 堂 活 版 所
同市同區同町第拾三番戶

213

ex 475







025679-000-7

特29-534

都の柴折

大八木 正太郎(諫鼓楼主人) / 著

M28

ADC-3201

